

鉱工業指数と第3次産業活動指数からみた 平成27年10～12月期の産業活動



経済産業省
経済解析室

平成28年3月

本稿における留意事項

1. 本稿における年の表示は和暦であり、元号は特記しない限り原則として平成である。
2. 四半期別伸び率寄与度は、特記しない限り前期比伸び率に対する寄与度である。なお、個々の系列毎に季節調整を行っているため、内訳の寄与度の積み上げと全体の伸び率は一致しないことがある。

目次

全産業活動の動向	・ ・ ・ ・ ・	3ページ
鉱工業生産の動向	・ ・ ・ ・ ・	8ページ
第3次産業活動の動向	・ ・ ・ ・ ・	27ページ
建設業活動の動向	・ ・ ・ ・ ・	38ページ

全産業活動の動向

鉱工業生産の動向

第3次産業活動の動向

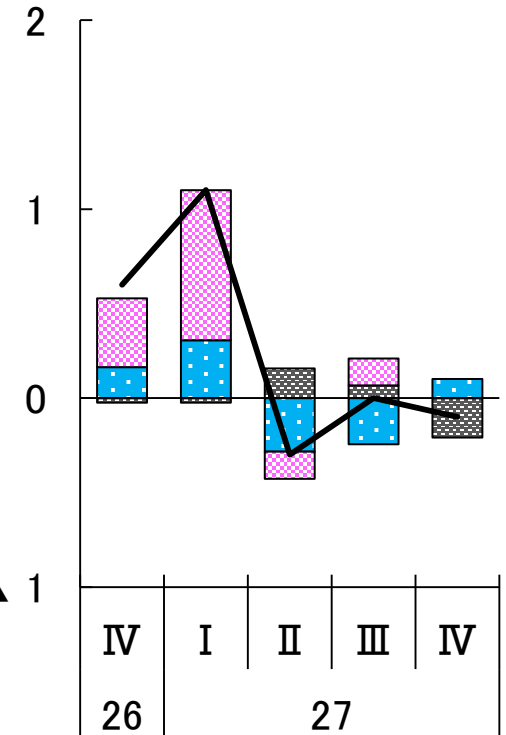
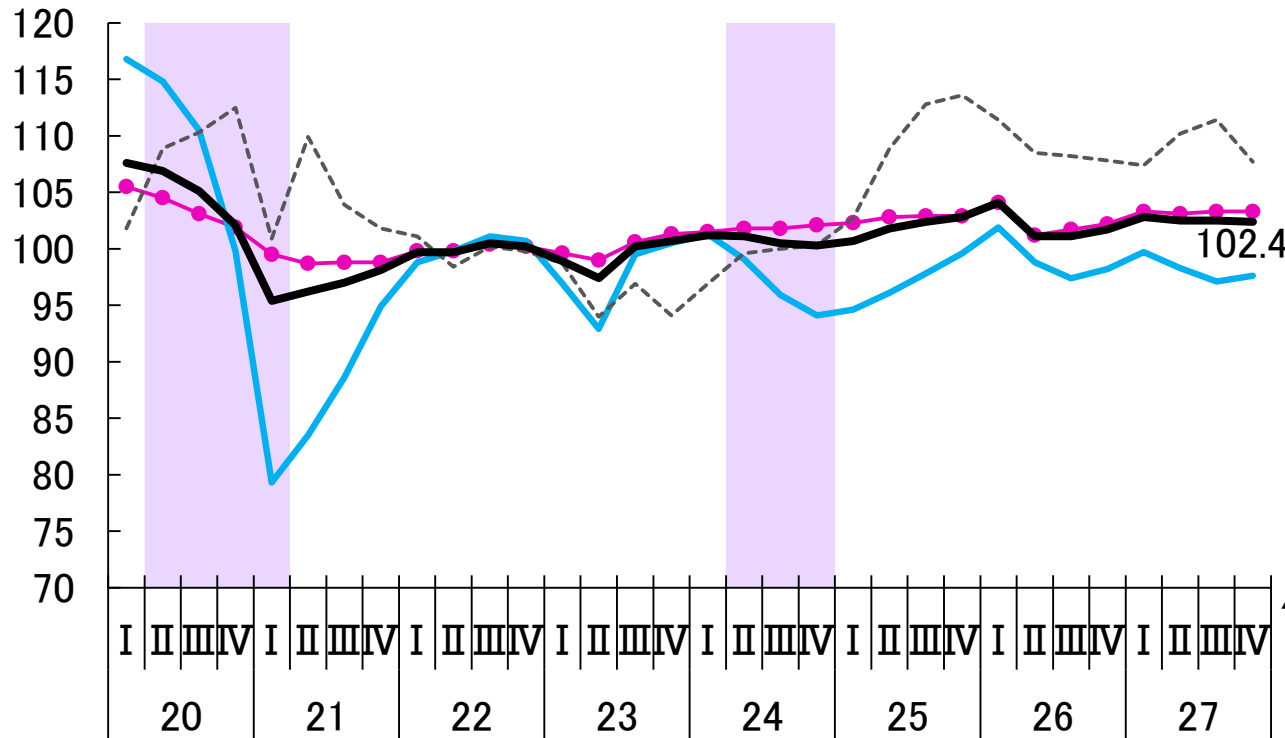
建設業活動の動向

第4四半期の全産業活動

- 平成27年10～12月期の全産業活動指数は、102.4（前期比▲0.1%）と2期ぶりの低下。
- 鉱工業生産が上昇したものの、建設業活動が低下。第3次産業活動は横ばい。

（22年＝100、季節調整済）

（前期比、%、%ポイント）



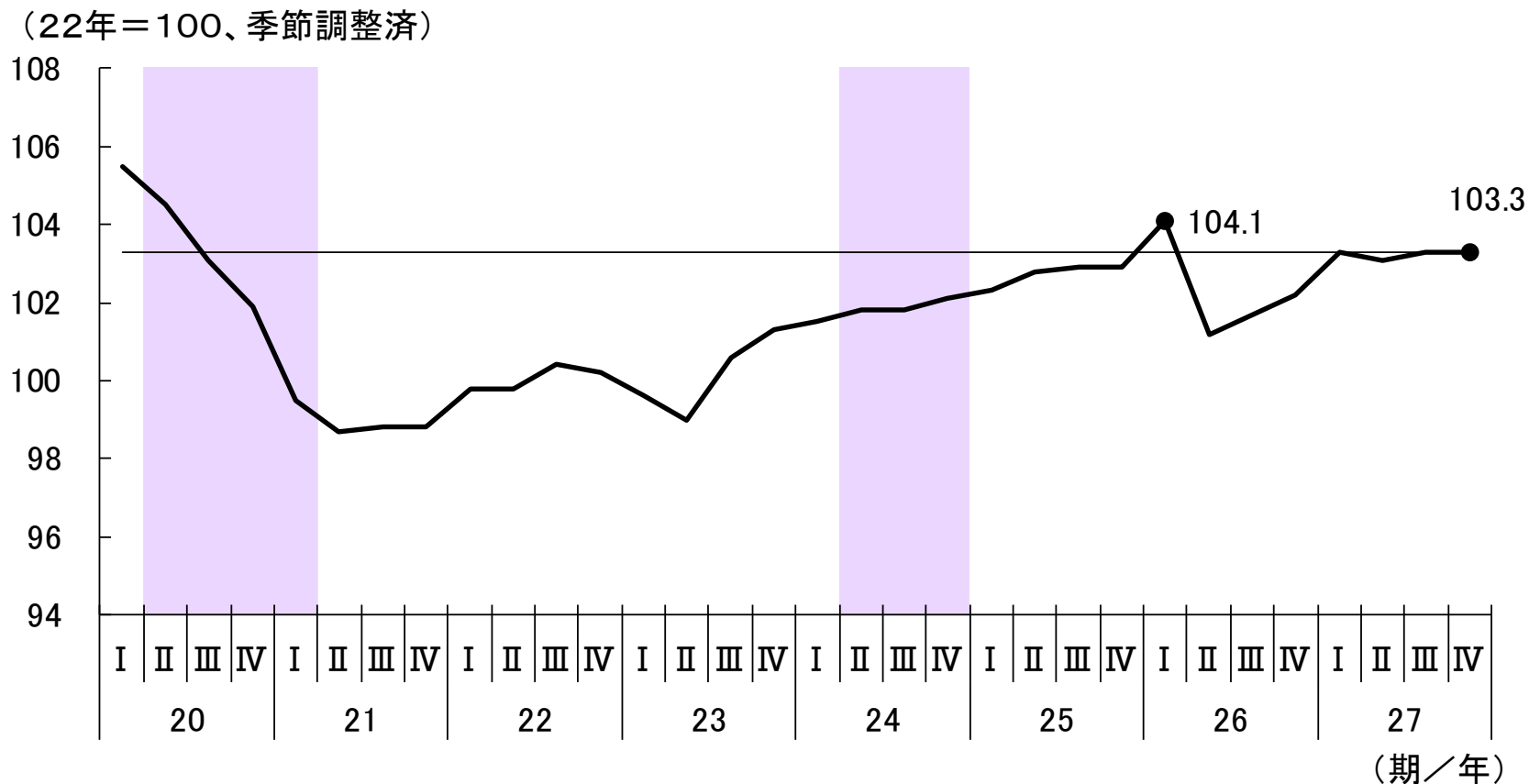
● 第3次産業活動指数
 ● 鉱工業生産指数
 - - - 建設業活動指数
 — 全産業活動指数

（期／年）
 ■ 第3次産業活動指数
 ■ 鉱工業生産指数
 ■ 建設業活動指数
 — 全産業活動指数

（注）シャドー部分は景気後退局面。
 （資料）経済産業省「全産業活動指数」より作成。

第4四半期の第3次産業活動指数

- 平成27年10～12月期の第3次産業活動指数は、103.3（前期比0.0%）と横ばい。



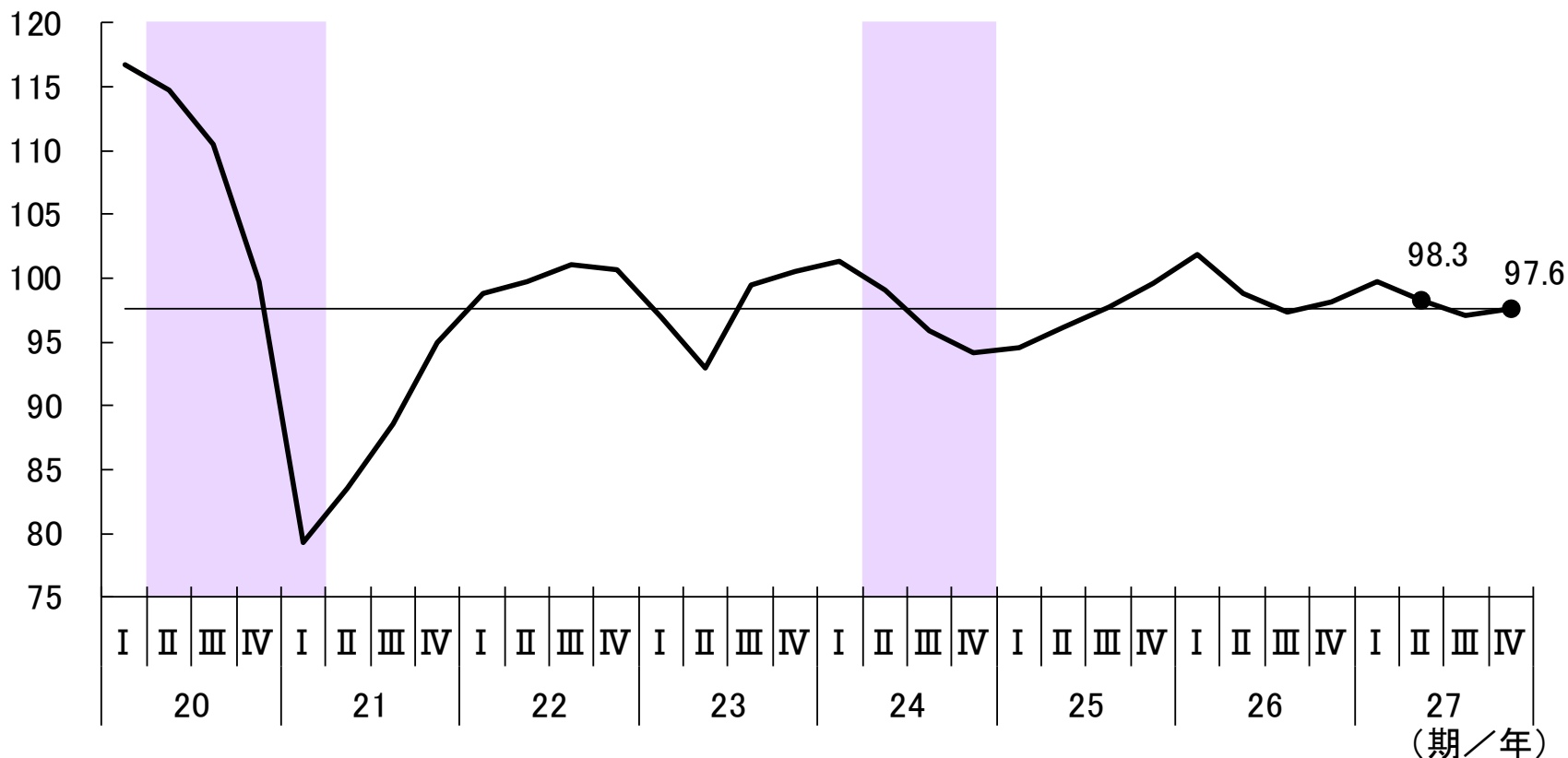
(注) シャド一部分は景気後退局面。

(資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

第4四半期の鉱工業生産指数

- 平成27年10～12月期の鉱工業生産指数は、97.6（前期比0.5%）と3期ぶりの上昇。
- 平成27年4～6月期の98.3以来の指数水準。

（22年＝100、季節調整済）



（注）1. 鉱工業指数（IIP）とは、月々の鉱工業の生産、出荷、在庫等を基準年（現在は平成22年）の12か月平均＝100として指数化したもので、事業所の生産活動、製品の需給動向など鉱工業全体の動きを示す代表的な指標。

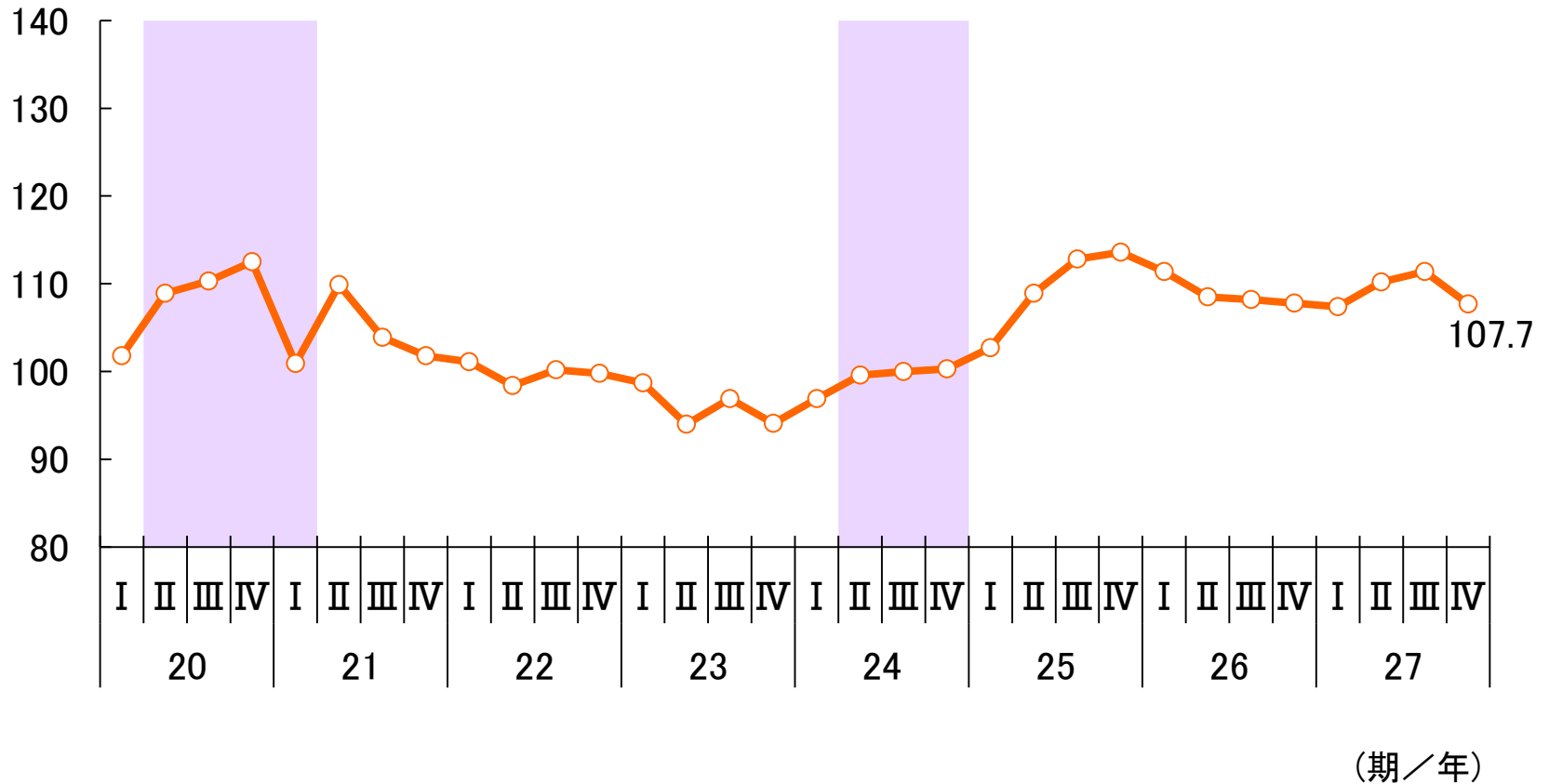
2. シャド一部分は景気後退局面。

（資料）経済産業省「鉱工業指数」より作成。

第4四半期の建設業活動指数

- 平成27年10～12月期の建設業活動指数は、107.7（前期比▲3.3%）と3期ぶりの低下。

（22年＝100、季節調整済）



（注）シャド一部分は景気後退局面。
（資料）経済産業省「全産業活動指数」より作成。

全産業活動の動向

鉱工業生産の動向

第3次産業活動の動向

建設業活動の動向

平成27年10～12月期 鉱工業指数(確報)各指数の状況

生産・出荷・在庫・在庫率指数

四半期	生産	出荷	在庫	在庫率
季調済指数	97.6	96.6	112.3	114.5
前月比	0.5%	0.4%	▲1.1%	▲1.0%
指数水準	H27.Ⅱ 98.3以来 ⅠH20.Ⅰ 116.8 ⅡH20.Ⅱ 114.8 ⅢH20.Ⅲ 110.5	H27.Ⅱ 96.8以来 ⅠH20.Ⅰ 118.2 ⅡH20.Ⅱ 115.0 ⅢH20.Ⅲ 109.4	H26.Ⅳ 112.3以来 (超)H26.Ⅲ 111.3以来 ①H23.Ⅰ 97.7 ②H21.Ⅳ、22.Ⅲ 99.1 ③H22.Ⅰ 99.6	H27.Ⅱ 114.0以来 ①H20.Ⅰ 96.8 ②H22.Ⅲ 97.9 ③H20.Ⅱ 98.1
前期比の動き	3期ぶり+ (H27.Ⅰ以来)	3期ぶり+ (H27.Ⅰ以来)	2期連続▲ (H27.Ⅲ～当期)	3期ぶり▲ (H27.Ⅰ以来)
前期比幅	H27.Ⅰ 1.5%以来 ⅠH21.Ⅳ、23.Ⅲ 7.1% ⅡH21.Ⅲ 6.1% ⅢH21.Ⅱ 5.3%	H27.Ⅰ 1.7%以来 ⅠH23.Ⅲ 9.0% ⅡH21.Ⅳ 7.7% ⅢH21.Ⅲ 6.3%	H25.Ⅳ ▲1.9%以来 ①H21.Ⅰ ▲7.2% ②H21.Ⅱ ▲5.9% ③H23.Ⅰ ▲4.2%	H27.Ⅰ ▲1.3%以来 ①H21.Ⅱ ▲12.1% ②H21.Ⅲ ▲11.7% ③H21.Ⅳ ▲8.4%
前年同期比(原指数)	▲0.5%	▲0.8%	0.0%	0.6%
前年同期比の動き	6期連続▲ (H26.Ⅲ～当期) ・直近で6期以上連続▲ 6期連続▲ (H20.Ⅲ～21.Ⅳ)	6期連続▲ (H26.Ⅲ～当期) ・直近で6期以上連続▲ 6期連続▲ (H20.Ⅲ～21.Ⅳ)	—	7期連続+ (H26.Ⅱ～当期) ・直近で7期以上連続+ 10期連続+ (H19.Ⅱ～21.Ⅲ)
前年同期比幅	H27.Ⅱ ▲0.5%以来 (超)H27.Ⅰ ▲2.1%以来 ①H21.Ⅰ ▲33.2% ②H21.Ⅱ ▲27.3% ③H21.Ⅲ ▲19.7%	H27.Ⅰ ▲2.4%以来 ①H21.Ⅰ ▲33.1% ②H21.Ⅱ ▲27.7% ③H21.Ⅲ ▲19.2%	—	H27.Ⅲ 2.1%以来 ⅠH21.Ⅰ 56.2% ⅡH21.Ⅱ 35.6% ⅢH23.Ⅱ 16.5%

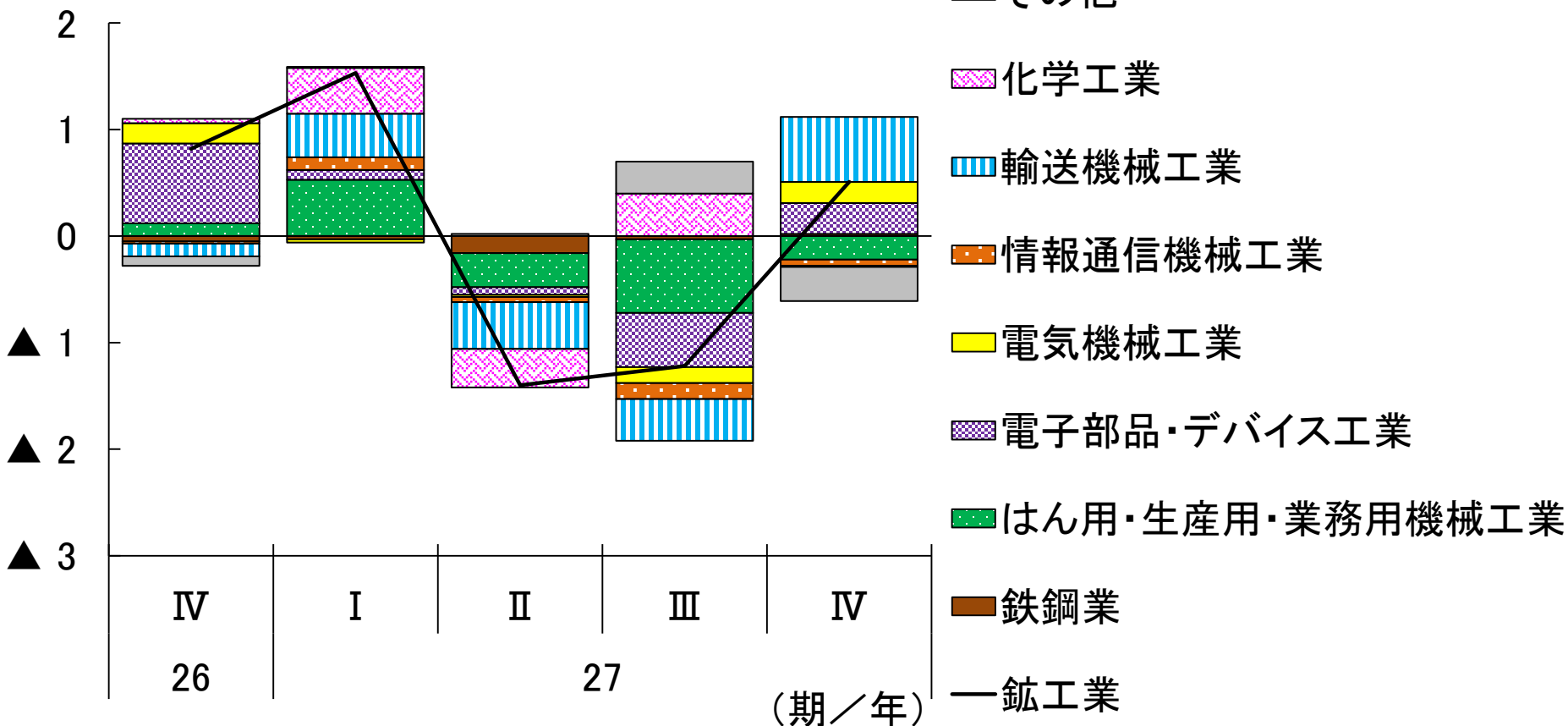
1) ▲はマイナス

2) Ⅰ～Ⅲは22年基準における最大値から上位3位まで、①～③は最小値から下位3位までの数値

鋳工業生産業種別前期比寄与度分解

- 平成27年10～12月期の鋳工業生産指数(前期比、季節調整済)は、はん用・生産用・業務用機械工業などが低下したものの、輸送機械工業などが上昇したため、前期比0.5%の上昇となった。

(季節調整済、前期比、%、%ポイント)



(注)その他には、非鉄金属工業、金属製品工業、窯業・土石製品工業、石油・石炭製品工業、プラスチック製品工業、パルプ・紙・紙加工品工業、繊維工業、食品・たばこ工業、その他工業、鋳業が含まれる。

(資料)経済産業省「鋳工業指数」より作成。

鋳工業生産を大きく動かした品目

全体

		品目名	前期比	寄与率
○ 鋳工業生産を上昇方向に引っ張った3品目	1位	乗用車	7.5%	103.9%
	2位	電子部品	8.6%	69.4%
	3位	自動車部品	3.8%	48.2%
○ 鋳工業生産を低下方向に引っ張った3品目	1位	半導体・フラットパネル製造装置	▲ 10.6%	▲ 38.1%
	2位	土木建設機械	▲ 10.5%	▲ 36.4%
	3位	集積回路	▲ 4.4%	▲ 27.3%

業種別

		業種・品目名	前期比	寄与率
○ 鋳工業生産を上昇方向へ引っ張った3業種の中で上昇への影響度が大きい2品目	1位の業種	輸送機械工業	3.2%	118.6%
	品目	乗用車	7.5%	103.9%
		自動車部品	3.8%	48.2%
	2位の業種	電子部品・デバイス工業	3.4%	55.7%
	品目	電子部品	8.6%	69.4%
		半導体部品	3.9%	3.6%
○ 鋳工業生産を低下方向へ引っ張った3業種の中で低下への影響度が大きい2品目	3位の業種	電気機械工業	2.9%	38.7%
	品目	民生用電気機械	7.2%	18.1%
		電池	11.0%	10.1%
	1位の業種	はん用・生産用・業務用機械工業	▲ 1.5%	▲ 43.3%
	品目	半導体・フラットパネル製造装置	▲ 10.6%	▲ 38.1%
		土木建設機械	▲ 10.5%	▲ 36.4%
	2位の業種	窯業・土石製品工業	▲ 2.6%	▲ 16.4%
	品目	ファインセラミックス	▲ 13.4%	▲ 21.5%
		セメント・同製品	▲ 3.3%	▲ 3.6%
	3位の業種	情報通信機械工業	▲ 2.2%	▲ 10.9%
	品目	電子計算機	▲ 5.3%	▲ 11.4%
	その他の情報通信機械	▲ 3.3%	▲ 1.3%	

寄与率: 生産全体の変動に対して影響を及ぼした、各品目の影響の度合い
全93業種の寄与率を足すと、当月が上昇なら100%、低下なら▲100%になる

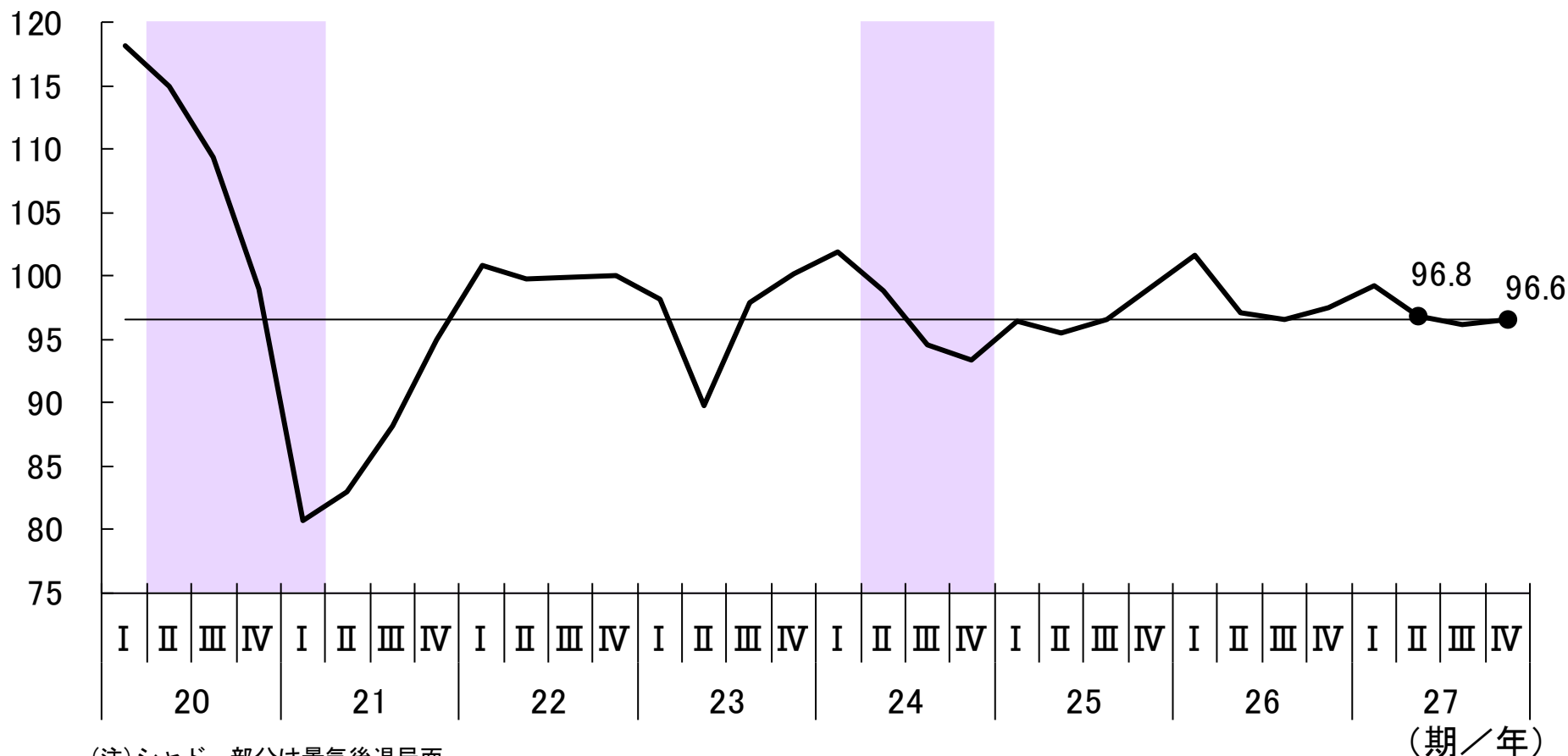
(注)「全体」、「業種別」内の各品目は、個別品目ではなく、個別品目を統合した分類によるもの。

(資料)経済産業省「鋳工業指数」より作成。

第4四半期の鉱工業出荷指数

- 平成27年10～12月期の鉱工業出荷指数は、96.6（前期比0.4%）と3期ぶりの上昇。
- 平成27年4～6月期の96.8以来の指数水準。

（22年＝100、季節調整済）

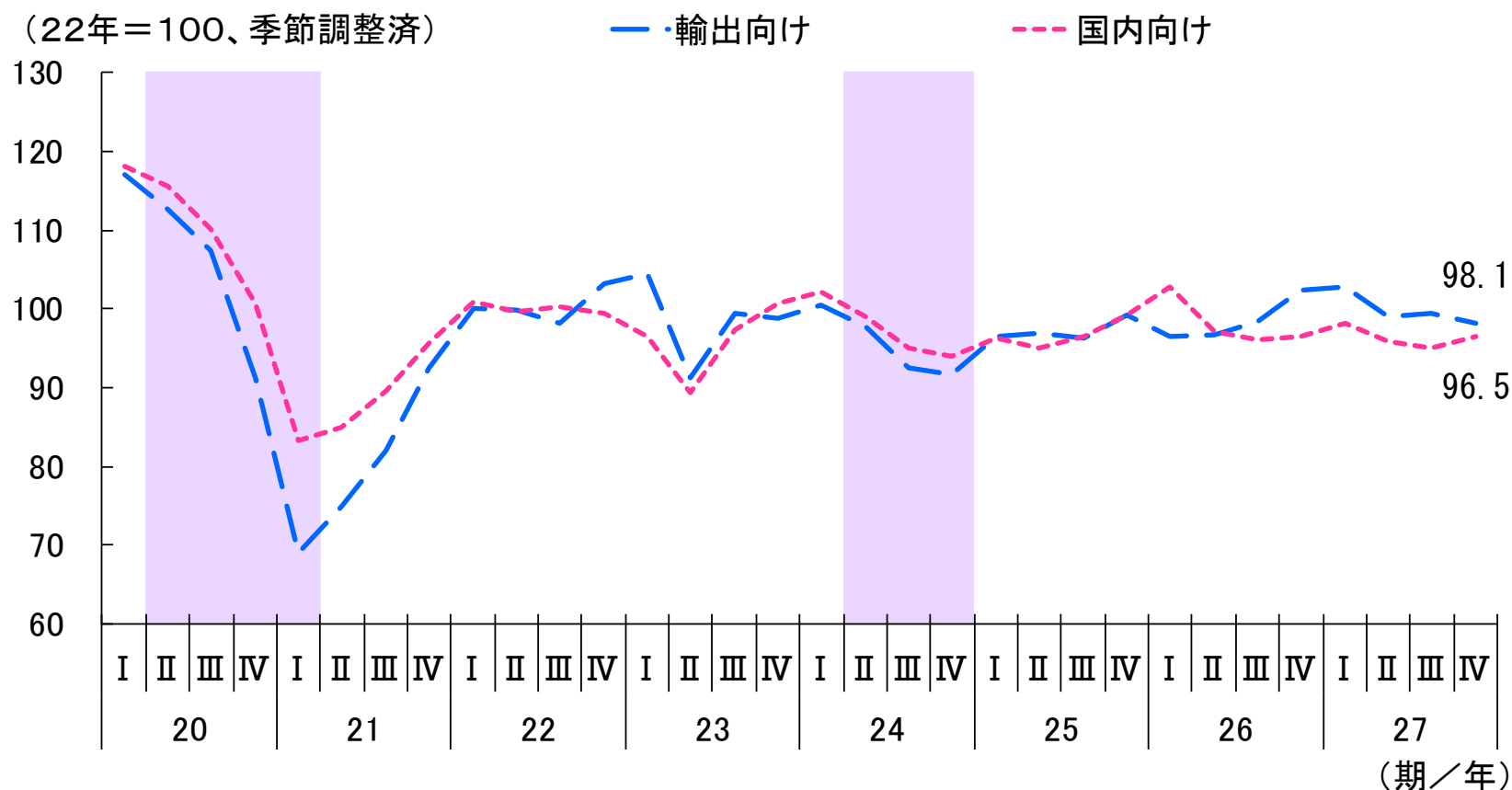


（注）シャドー部分は景気後退局面。

（資料）経済産業省「鉱工業指数」より作成。

第4四半期の出荷内訳表

- 平成27年10～12月期の鉱工業出荷指数の内訳をみると、国内向けは96.5（前期比1.5%）と3期ぶりの上昇、輸出向けは98.1（同▲1.4%）と2期ぶりの低下。



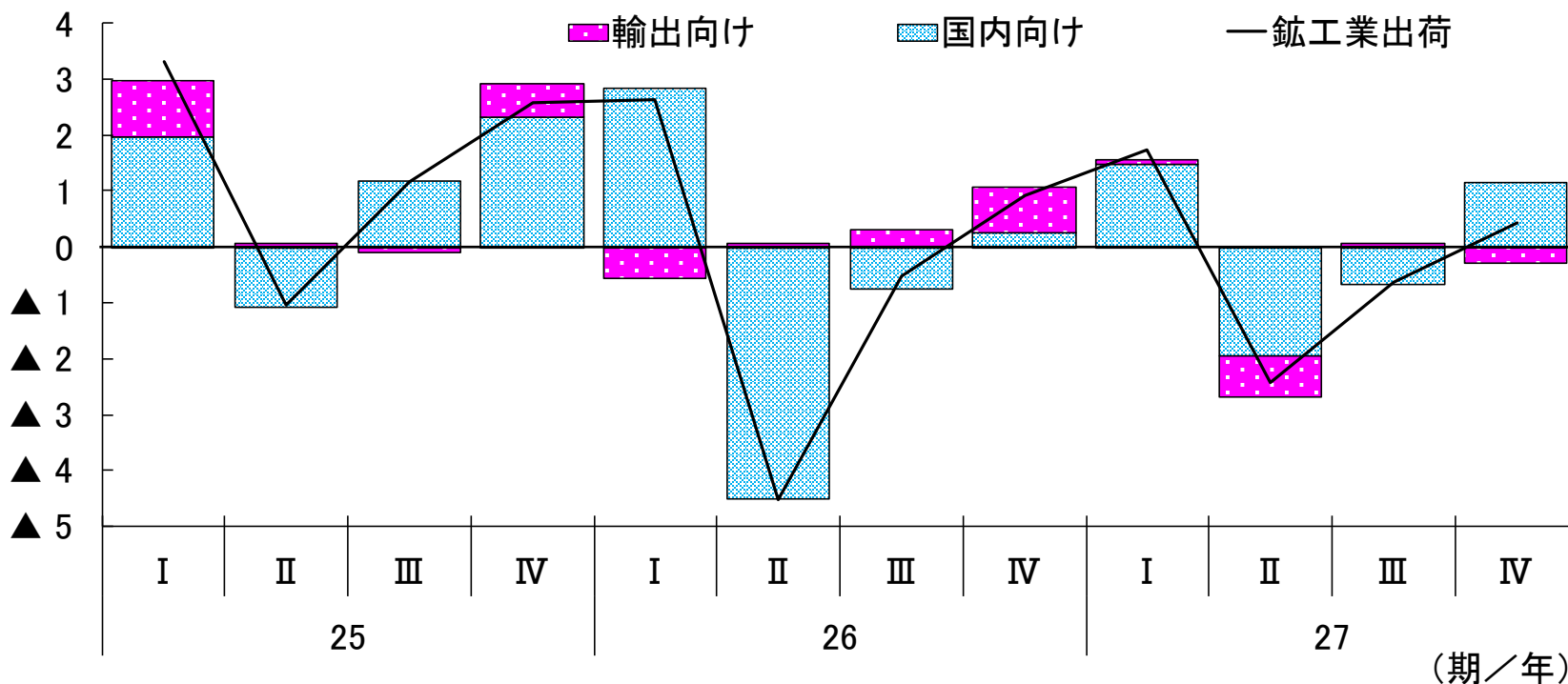
(注) シャド一部分は景気後退局面。

(資料) 経済産業省「鉱工業出荷内訳表」より作成。

出荷内訳表(前期比寄与度)の動向

- 鋳工業出荷の前期比の内訳をみると、輸出向け出荷が低下したものの、国内向け出荷が上昇。

(季節調整済、前期比、%、%ポイント)

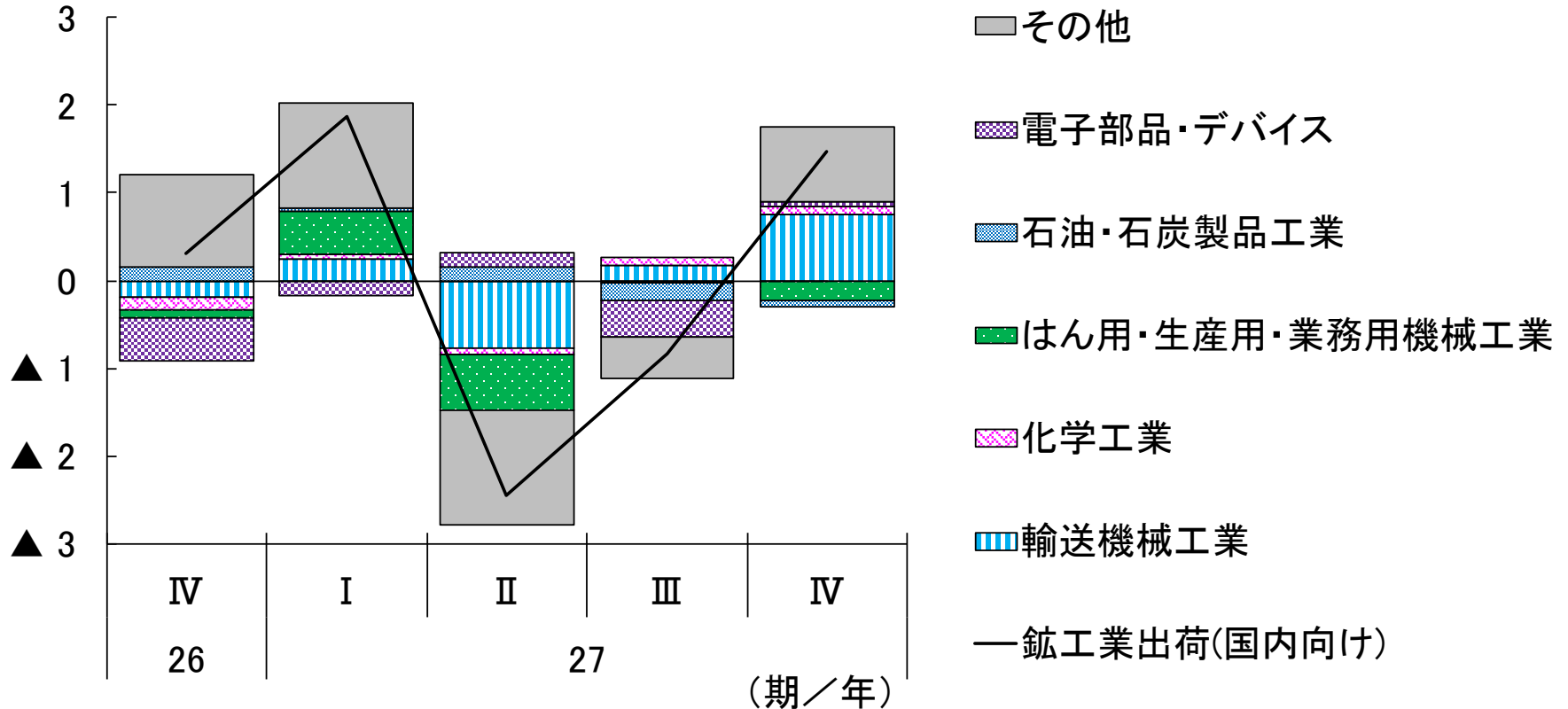


(資料) 経済産業省「鋳工業出荷内訳表」より作成。

主要業種別・国内向け出荷の動向

- 平成27年10～12月期の鉱工業・国内向け出荷を、主要業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械工業などが低下したものの、輸送機械工業などが上昇。

(季節調整済、前期比、%、%ポイント)



(注) 主要業種とは、鉱工業・国内向け出荷(ウエイト8028.51)のうち、ウエイトが大きい5業種を選定。

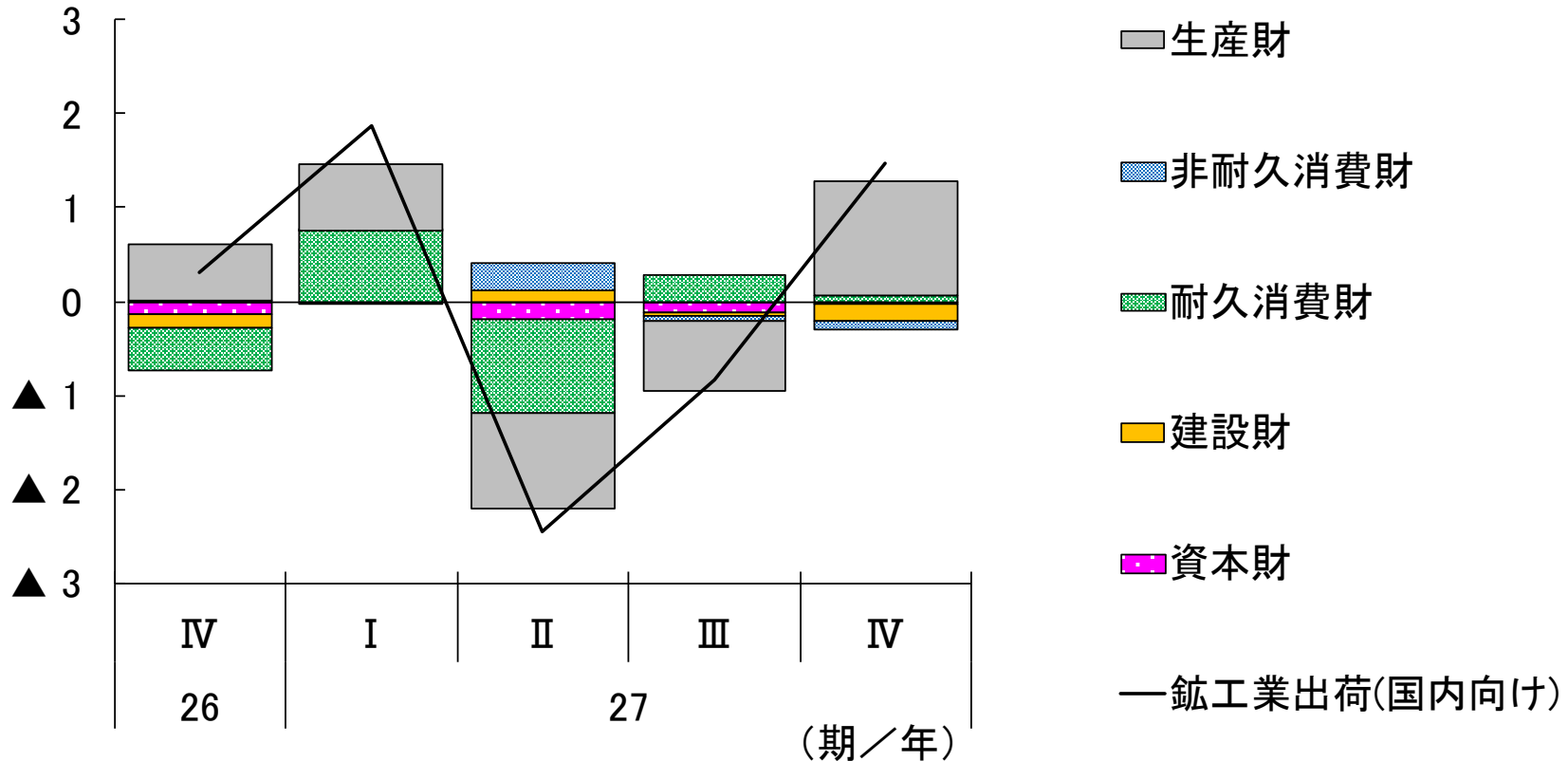
具体的には、輸送機械工業(国内向け、ウエイト1658.38)、化学工業(同、同860.84)、はん用・生産用・業務用機械工業(同、同796.12)、石油・石炭製品工業(同、同574.89)、電子部品・デバイス工業(同、同457.59)。

(資料) 経済産業省「鉱工業出荷内訳表」より作成。

財別・国内向け出荷の動向

- 平成27年10～12月期の鉱工業・国内向け出荷を、財別にみると、建設財などが低下したものの、生産財などが上昇。

(季節調整済、前期比、%、%ポイント)

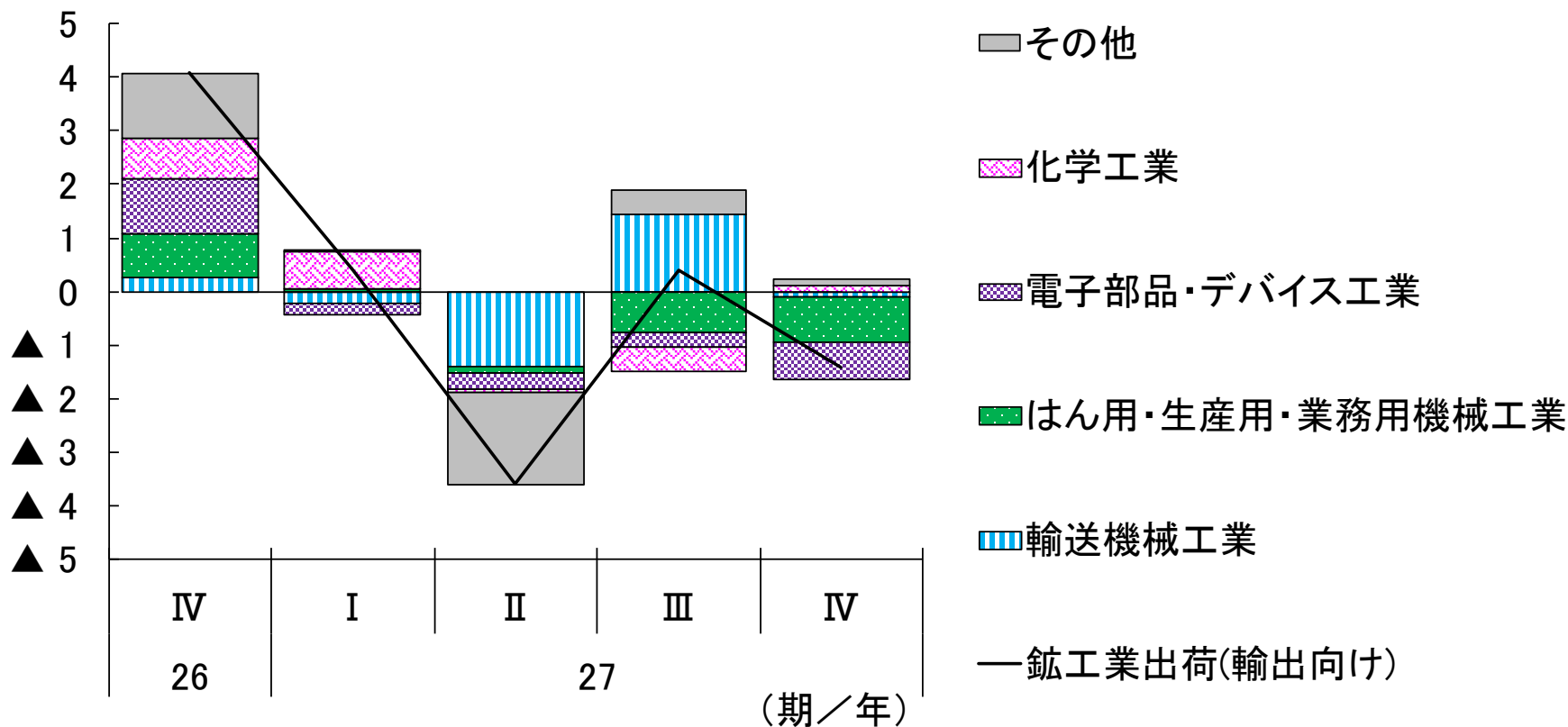


(資料) 経済産業省「鉱工業出荷内訳表」より作成。

主要業種別・輸出向け出荷の動向

- 平成27年10～12月期の鉱工業・輸出向け出荷を、主要業種別にみると、化学工業などが上昇したものの、はん用・生産用・業務用機械工業などが低下。

(季節調整済、前期比、%、%ポイント)



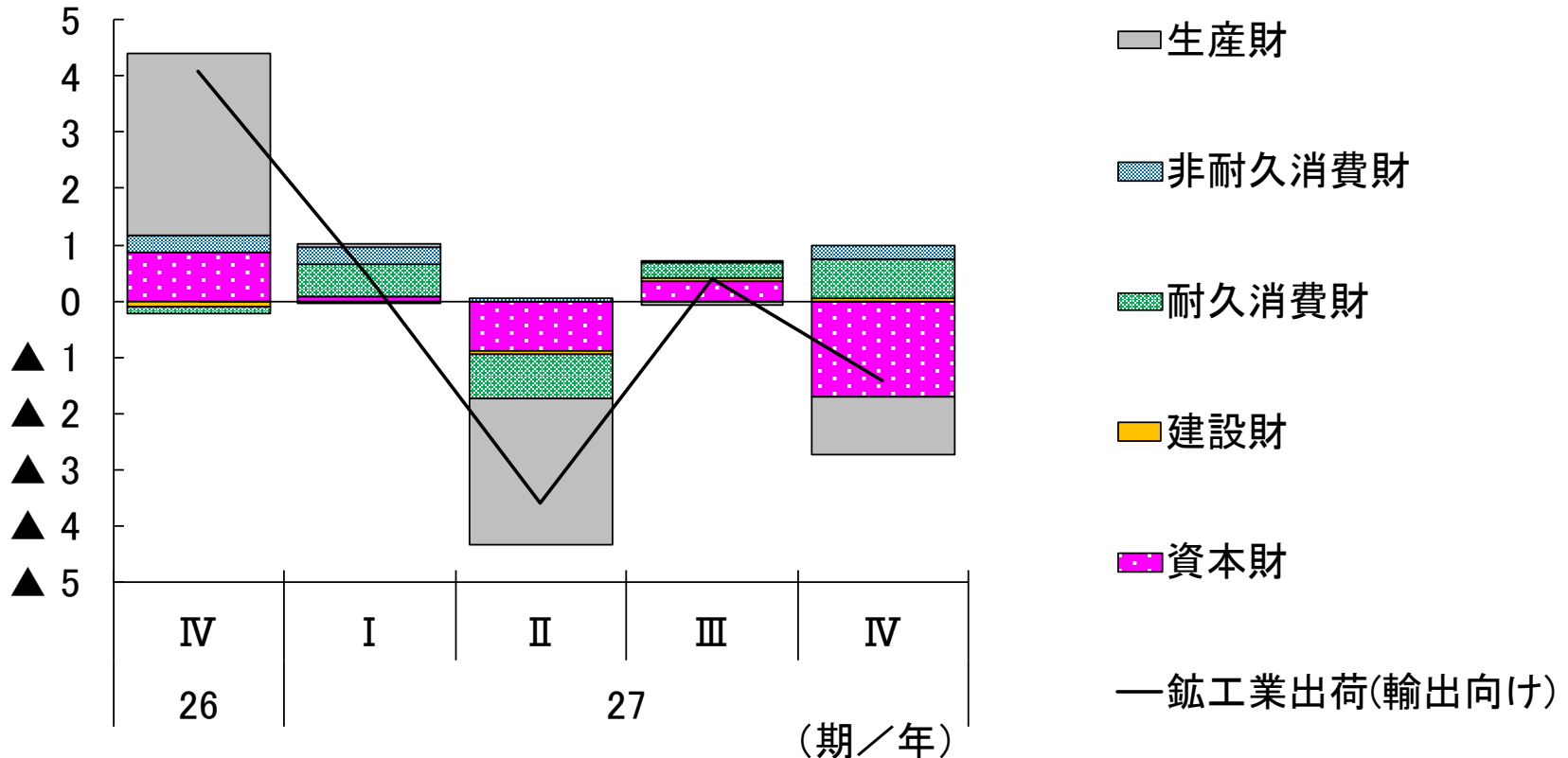
(注) 主要業種とは、鉱工業・輸出向け出荷(ウエイト1971.49)のうち、ウエイトが大きい4業種を選定。
 具体的には、輸送機械工業(輸出向け、ウエイト560.52)、はん用・生産用・業務用機械工業(同、同289.48)
 電子部品・デバイス工業(同、同253.51)、化学工業(同、同180.06)の4業種。

(資料) 経済産業省「鉱工業出荷内訳表」より作成。

財別・輸出向け出荷の動向

- 平成27年10～12月期の鉱工業・輸出向け出荷を、財別にみると、耐久消費財などが上昇したものの、資本財などが低下。

(季節調整済、前期比、%、%ポイント)

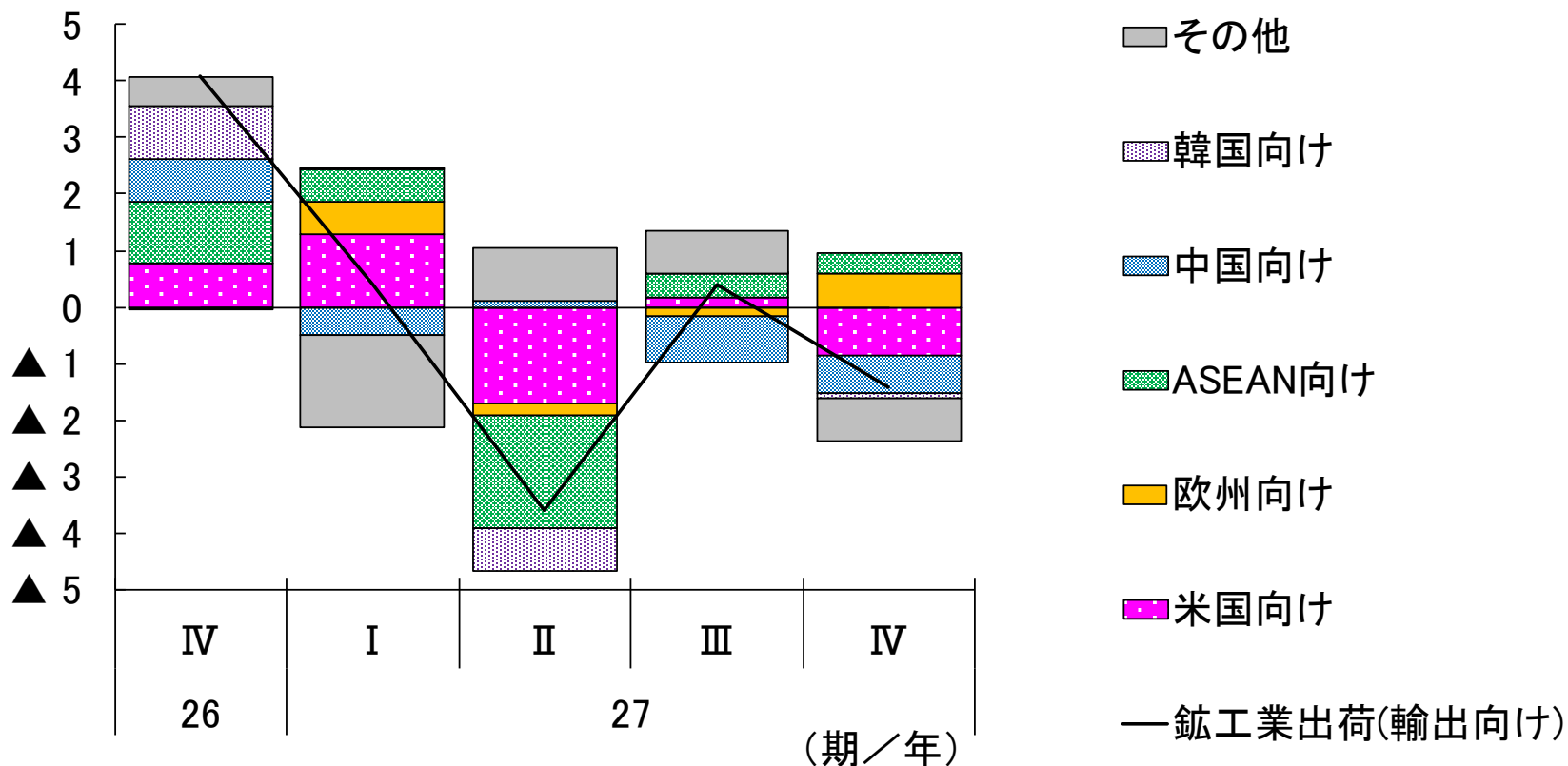


(資料) 経済産業省「鉱工業出荷内訳表」より作成。

地域別・輸出向け出荷の動向

- 平成27年10～12月期の鉱工業・輸出向け出荷を、地域別にみると、欧州向けなどが上昇したものの、米国向けなどが低下。

(季節調整済、前期比、%、%ポイント)

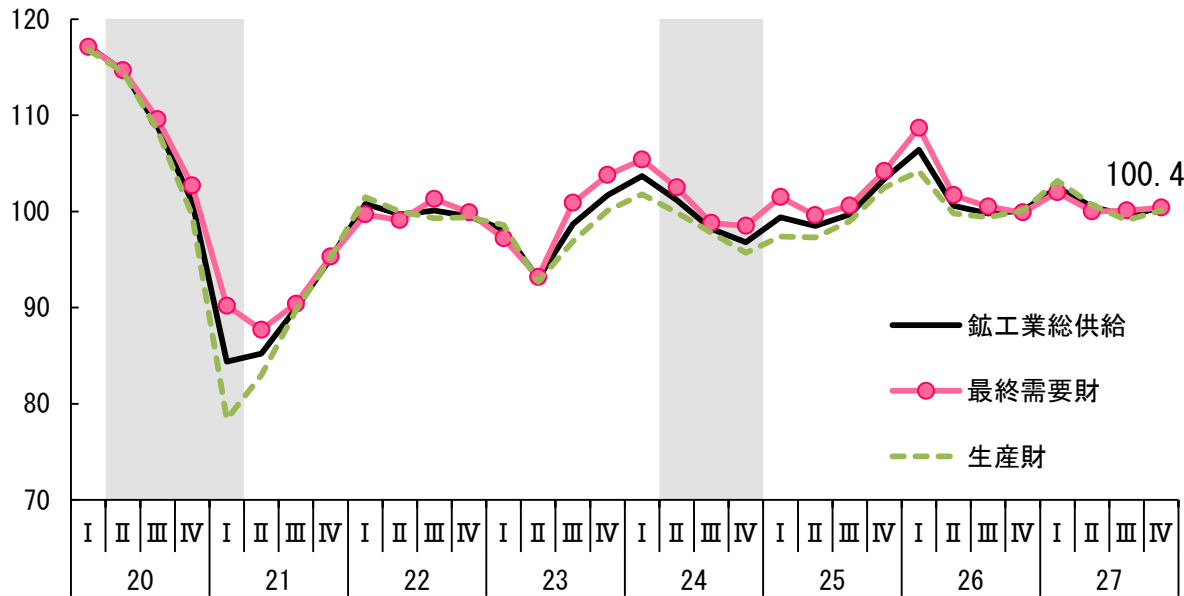


(資料) 経済産業省「鉱工業出荷内訳表」(試算値)より作成。

第4四半期の財別の総供給の動向

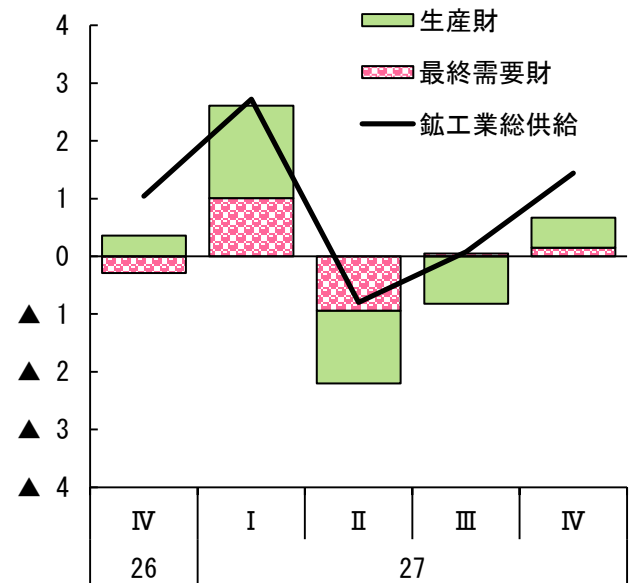
- 平成27年10～12月期の鉱工業総供給指数は、100.4（前期比0.8%）と3期ぶりの上昇。
- 財別にみると、生産財は3期ぶりの上昇、最終需要財は2期連続の上昇。

（22年=100、季節調整済）



（期／年）

（前期比、%、%ポイント）



（期／年）

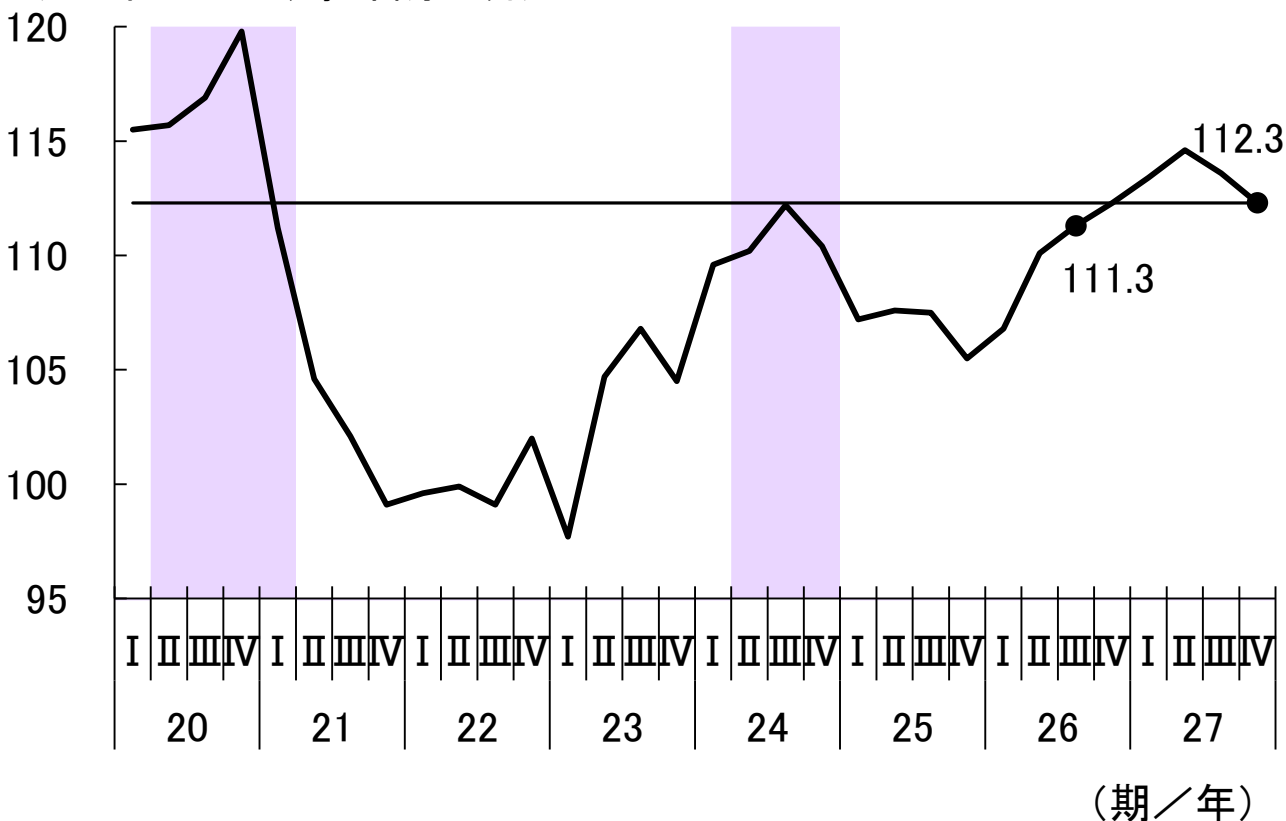
（注）シャドー部分は景気後退局面。

（資料）経済産業省「鉱工業総供給表」より作成。

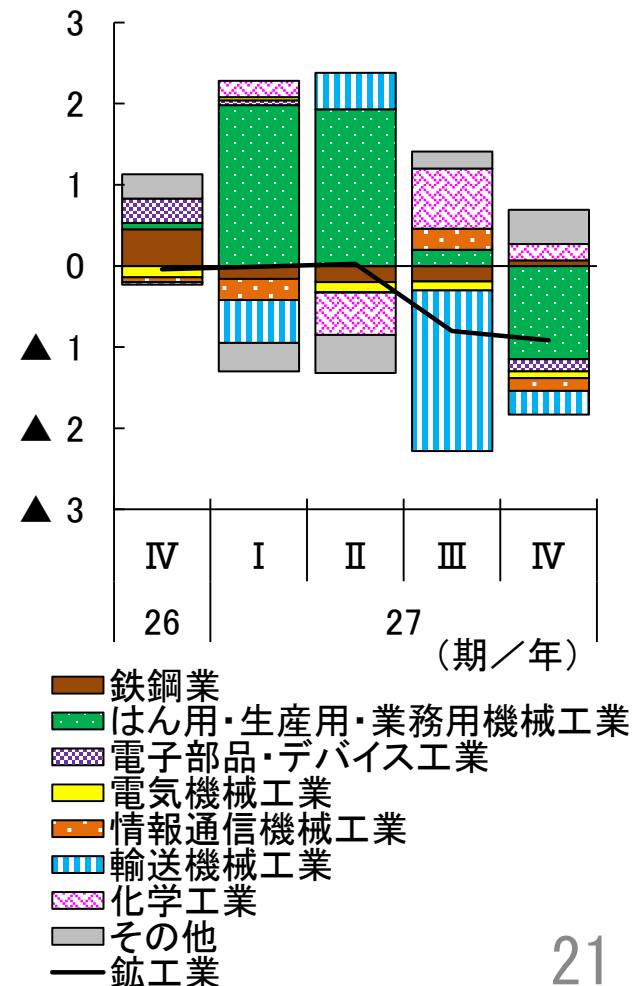
第4四半期末の鋳工業在庫の状態

- 平成27年10～12月期の鋳工業在庫指数(期末)は、112.3(前期末比▲1.1%)と2期連続の低下。
- 業種別にみると、化学工業などが上昇したものの、はん用・生産用・業務用機械工業などが低下。

(22年=100、季節調整済)



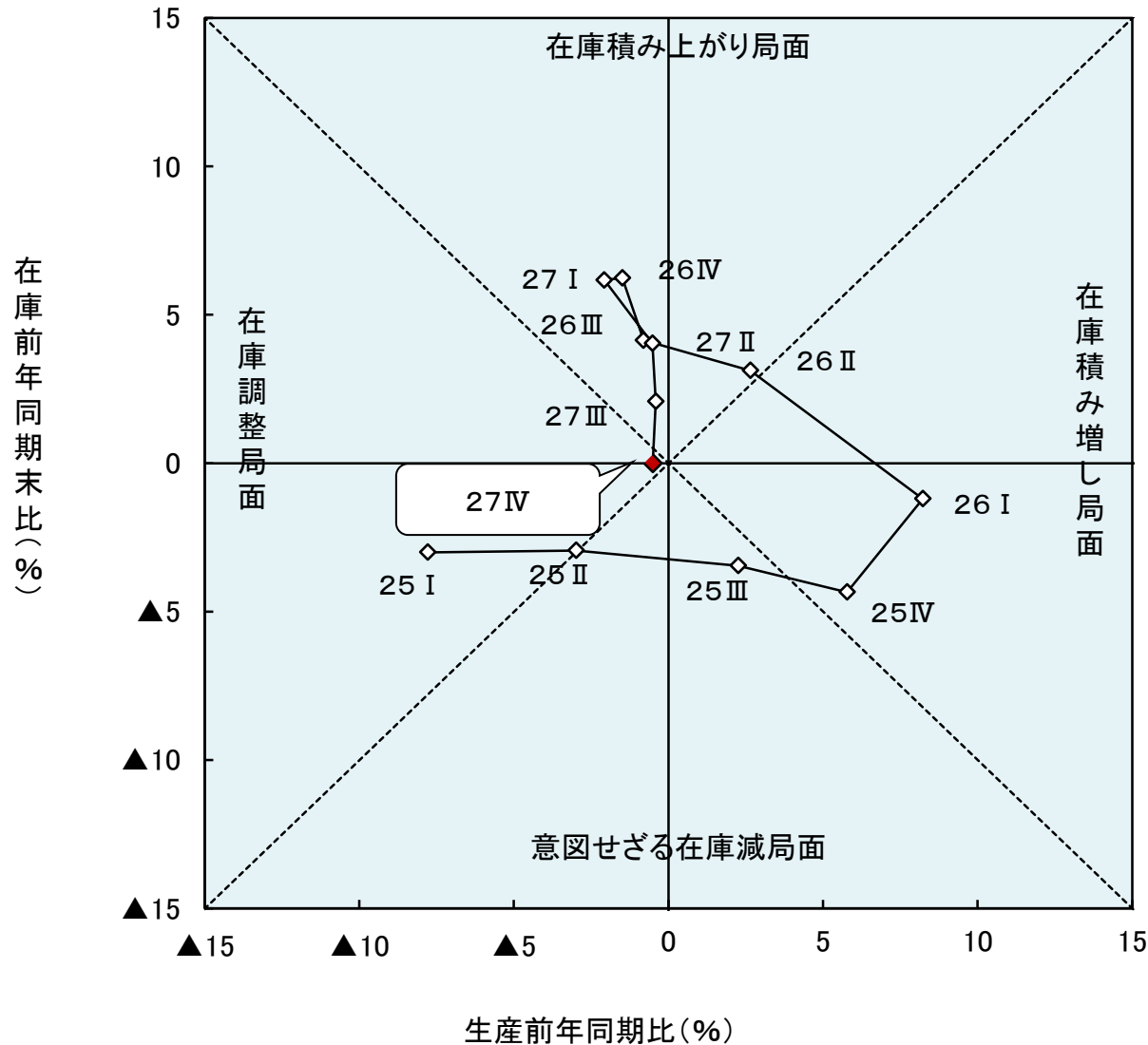
(季節調整済、前期比、%、%ポイント)



(注)シャドー部分は景気後退局面。
 (資料)経済産業省「鋳工業指数」より作成。

第4四半期末までの在庫循環図

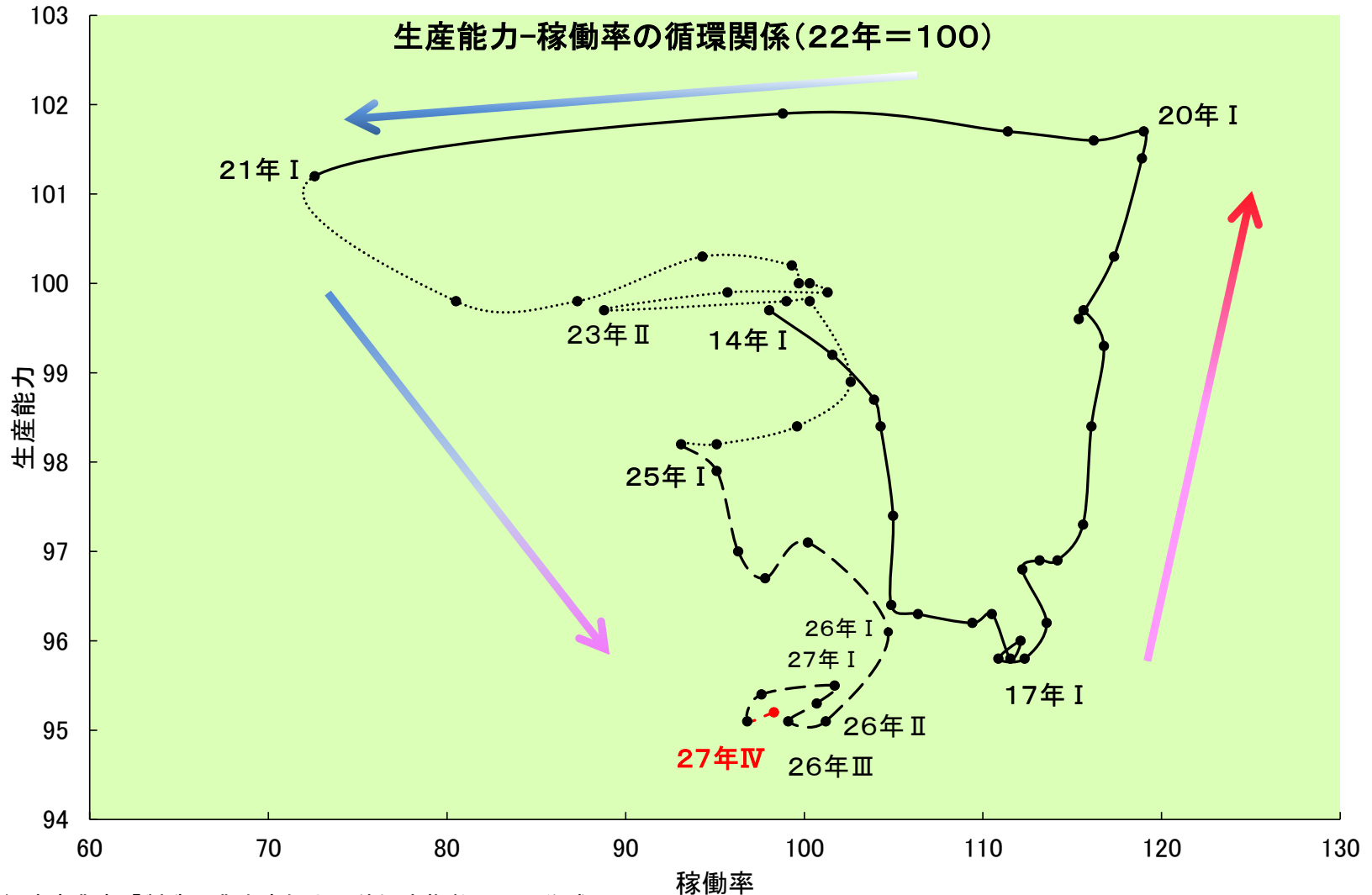
- 在庫循環をみると、平成27年10～12月期は「在庫調整局面」に移行。



(資料) 経済産業省「鉱工業指数」より作成。

生産能力－稼働率の循環関係(平成22年＝100)

- 平成27年10～12月期の生産能力指数(期末)は、95.2(前期比0.1%)と3期ぶりの上昇、稼働率指数は98.3(同1.5%)と3期ぶりの上昇。

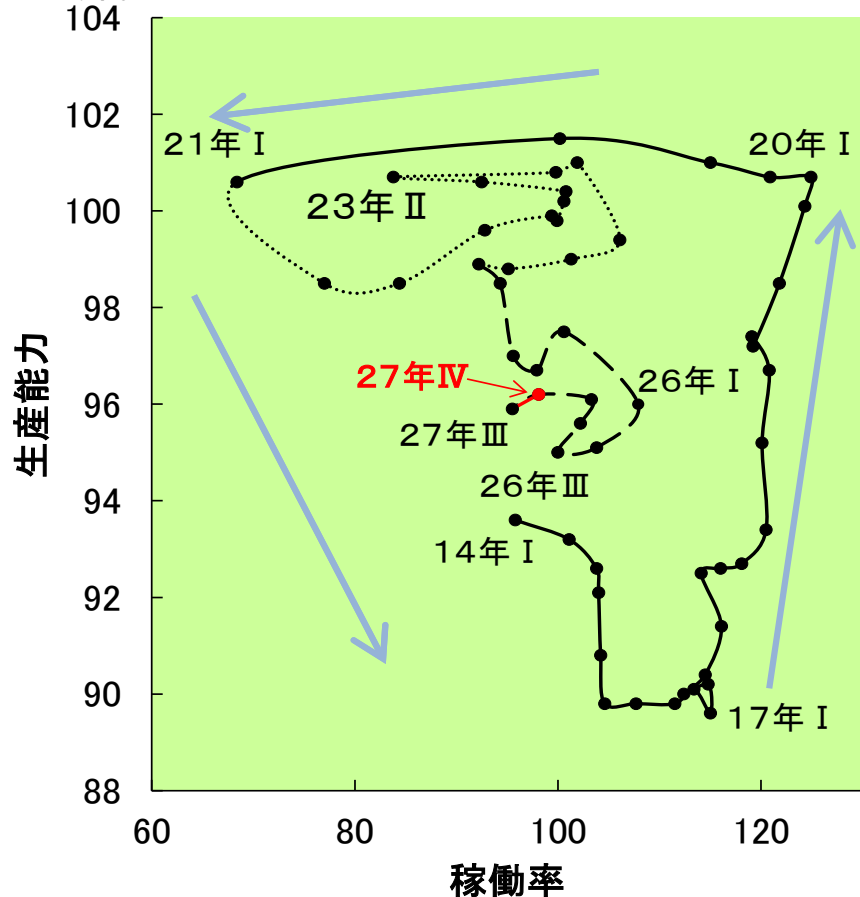


(資料) 経済産業省「製造工業生産能力・稼働率指数」より作成。

生産能力－稼働率の循環関係(平成22年＝100)

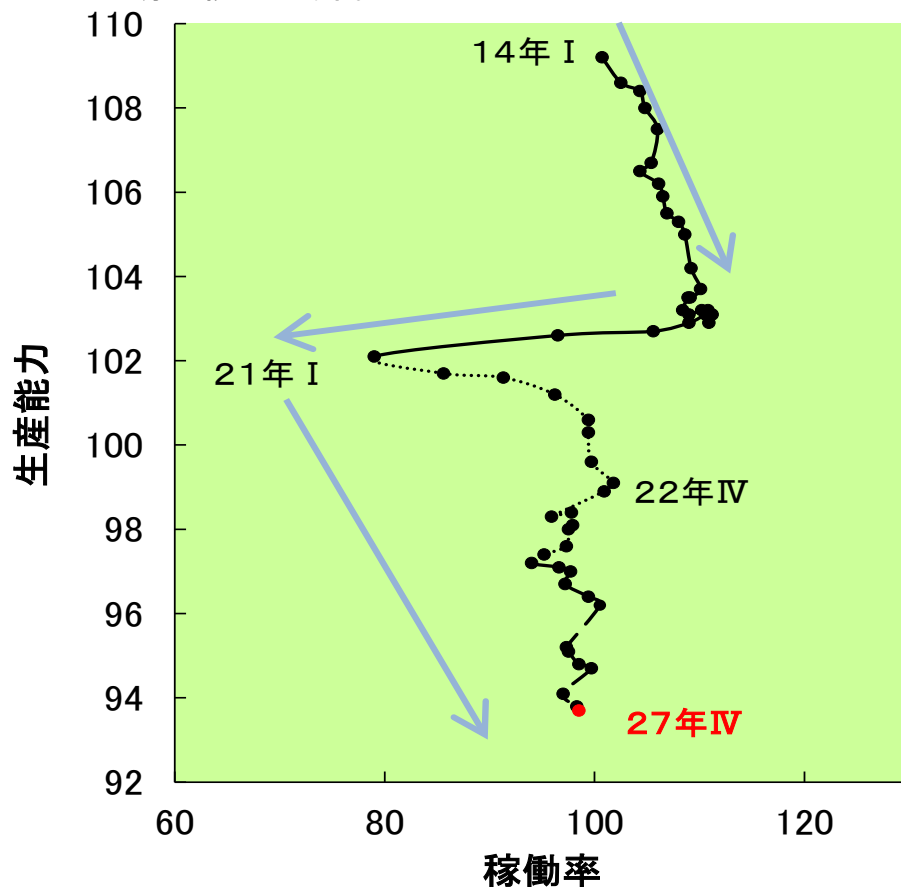
機械工業

- 平成27年10～12月期の生産能力指数(期末)は、96.2(前期比0.3%)と2期ぶりの上昇。稼働率指数は98.1(同2.7%)と3期ぶりの上昇。



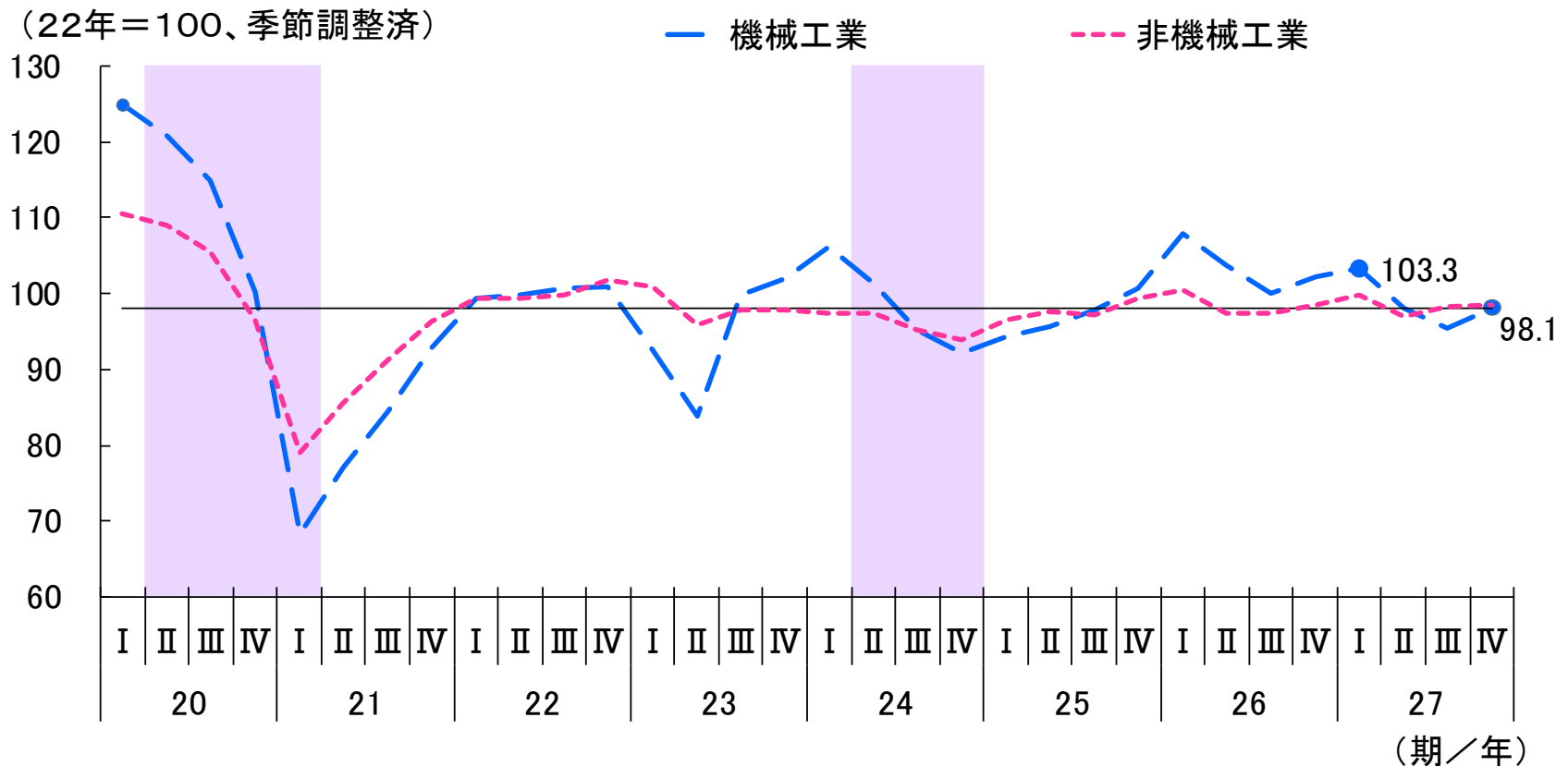
非機械工業

- 平成27年10～12月期の生産能力指数(期末)は、93.7(前期比▲0.1%)と17期連続の低下。稼働率指数は98.5(同0.2%)と2期連続の上昇。



機械工業と非機械工業の稼働率指数

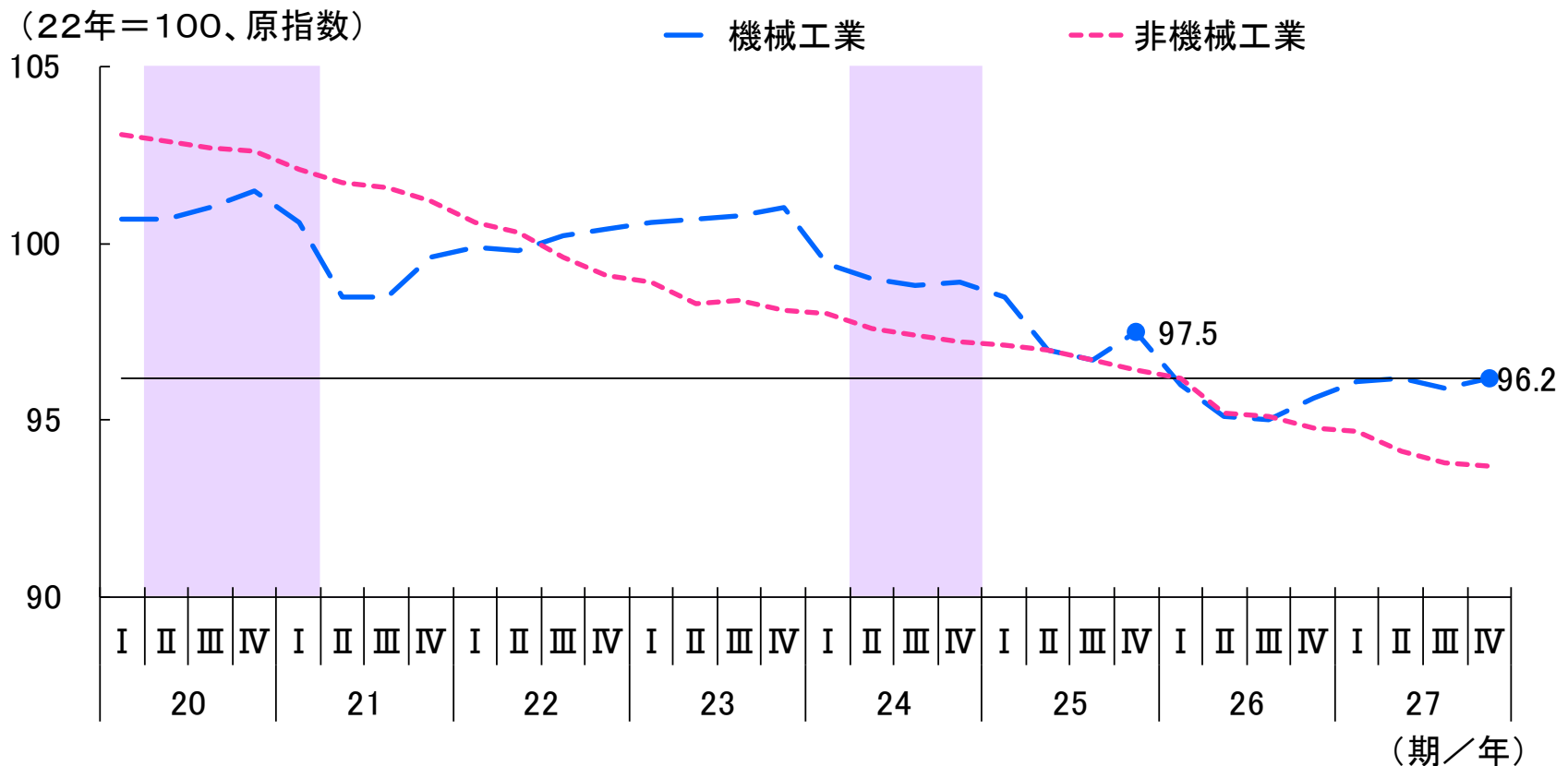
- 平成27年10～12月期の機械工業は、98.1（前期比2.7%）と3期ぶりの上昇。平成27年1～3月期の103.3以来の指数水準。
- 非機械工業は、98.5（前期比0.2%）と2期連続の上昇。



(注)シャドー部分は景気後退局面。
(資料)経済産業省「鉱工業指数」より作成。

機械工業と非機械工業の生産能力指数

- 平成27年10～12月期の機械工業は、96.2（前期末比0.3%）と2期ぶりの上昇。平成25年10～12月期の97.5以来の指数水準。
- 非機械工業は、93.7（前期末比▲0.1%）と17期連続の低下。



(注) シャド一部分は景気後退局面。
 (資料) 経済産業省「鉱工業指数」より作成。

全産業活動の動向

鉱工業生産の動向

第3次産業活動の動向

建設業活動の動向

平成27年10～12月期 第3次産業活動指数の状況

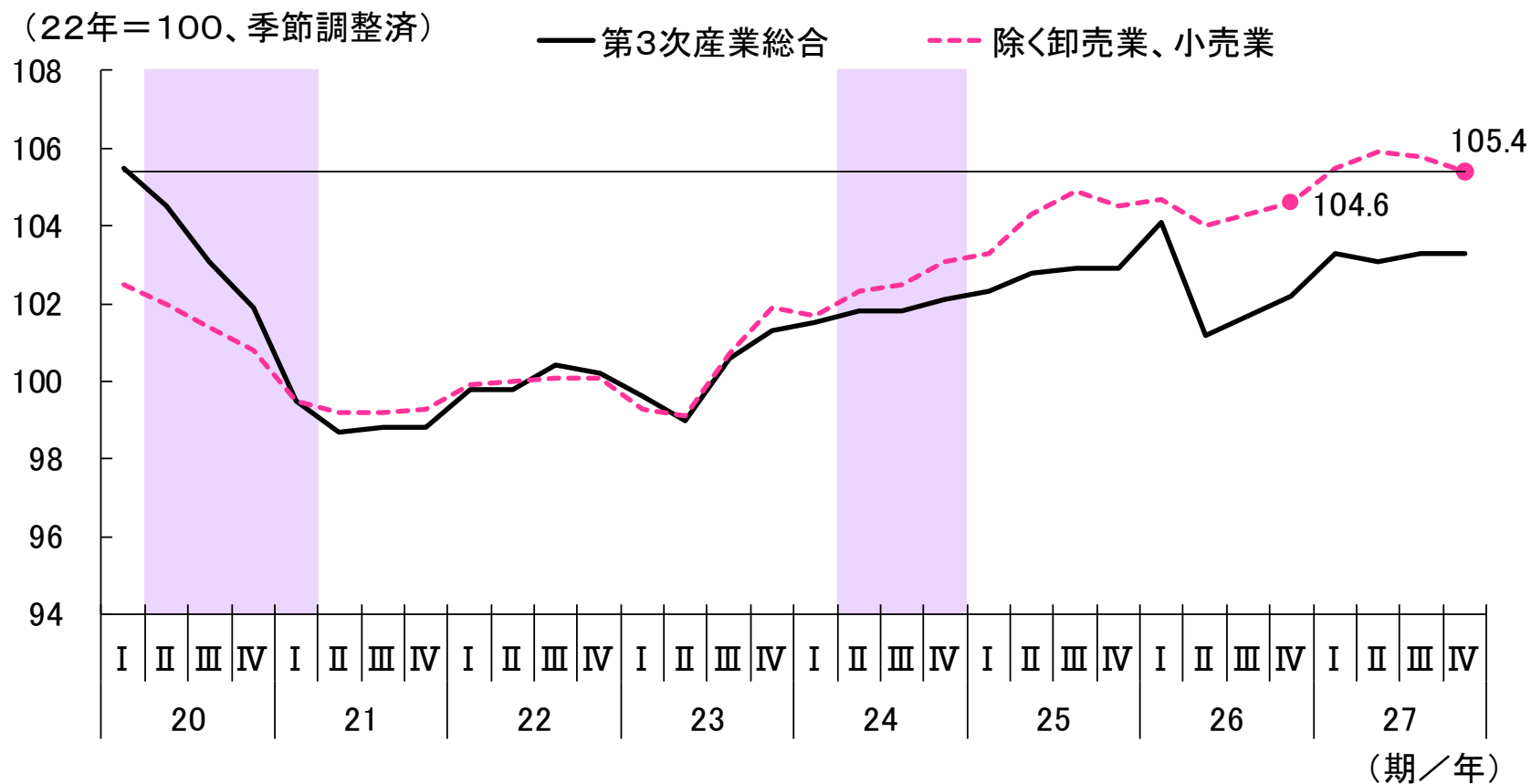
四半期(H27年10-12月期)	第3次産業総合	広義対個人サービス	広義対事業所サービス
季調済指数	103.3	104.9	102.4
前期比	0.0%	0.0%	0.8%
指数水準	H27.Ⅲ 103.3以来 下位 上位 ①H21.Ⅱ 98.7 I H20.Ⅰ 105.5 ②H21.Ⅲ,Ⅳ 98.8 II H20.Ⅱ 104.5 ③H23.Ⅱ 99.0 III H26.Ⅰ 104.1	H27.Ⅲ 104.9以来 下位 上位 ①H21.Ⅰ,Ⅱ 97.8 I H26.Ⅰ 105.7 ②H20.Ⅲ 97.9 II H27.Ⅰ 105.1 ③H21.Ⅲ 98.1 III H27.Ⅲ,Ⅳ 104.9	H26.Ⅰ 103.1以来 I H20.Ⅰ 111.6 II H20.Ⅱ 110.3 III H20.Ⅲ 107.9
前期比の動き	—	—	2期連続+ (H27.Ⅲ以来)
前期比幅	—	—	H27.Ⅰ 1.2%以来 I H23.Ⅲ, H26.Ⅰ 1.4% II H27.Ⅰ 1.2% III H22.Ⅰ, H26.Ⅳ 1.0%
原指数 前年同期比	1.1%	0.4%	1.6%
前年同期比の動き	3期連続+ (H27.Ⅱ以来)	3期連続+ (H27.Ⅱ以来)	3期連続+ (H27.Ⅱ以来)
前年同期比幅	H27.Ⅲ 1.6%以来 I H24.Ⅱ 3.0% II H24.Ⅰ 2.7% II H26.Ⅰ 2.0%	H27.Ⅲ 1.2%以来 I H24.Ⅰ 4.3% II H24.Ⅱ 3.6% III H23.Ⅳ 2.5%	H27.Ⅲ 1.7%以来 I H26.Ⅰ 2.3% II H24.Ⅱ 2.2% III H27.Ⅱ 1.8%

※ローマ数字のデータは平成22年基準における最大値からのもの、○数字は最小値からのもの

※Ⅰ～Ⅲは22年基準における最大値から上位3位まで、①～③は最小値から下位3位までの数値

卸売業、小売業を除いた第3次産業活動指数

- 平成27年10～12月期の卸売業、小売業を除いた第3次産業活動指数は、105.4（前期比▲0.4%）と2期連続の低下。
- 平成26年10～12月期の104.6以来の指数水準。

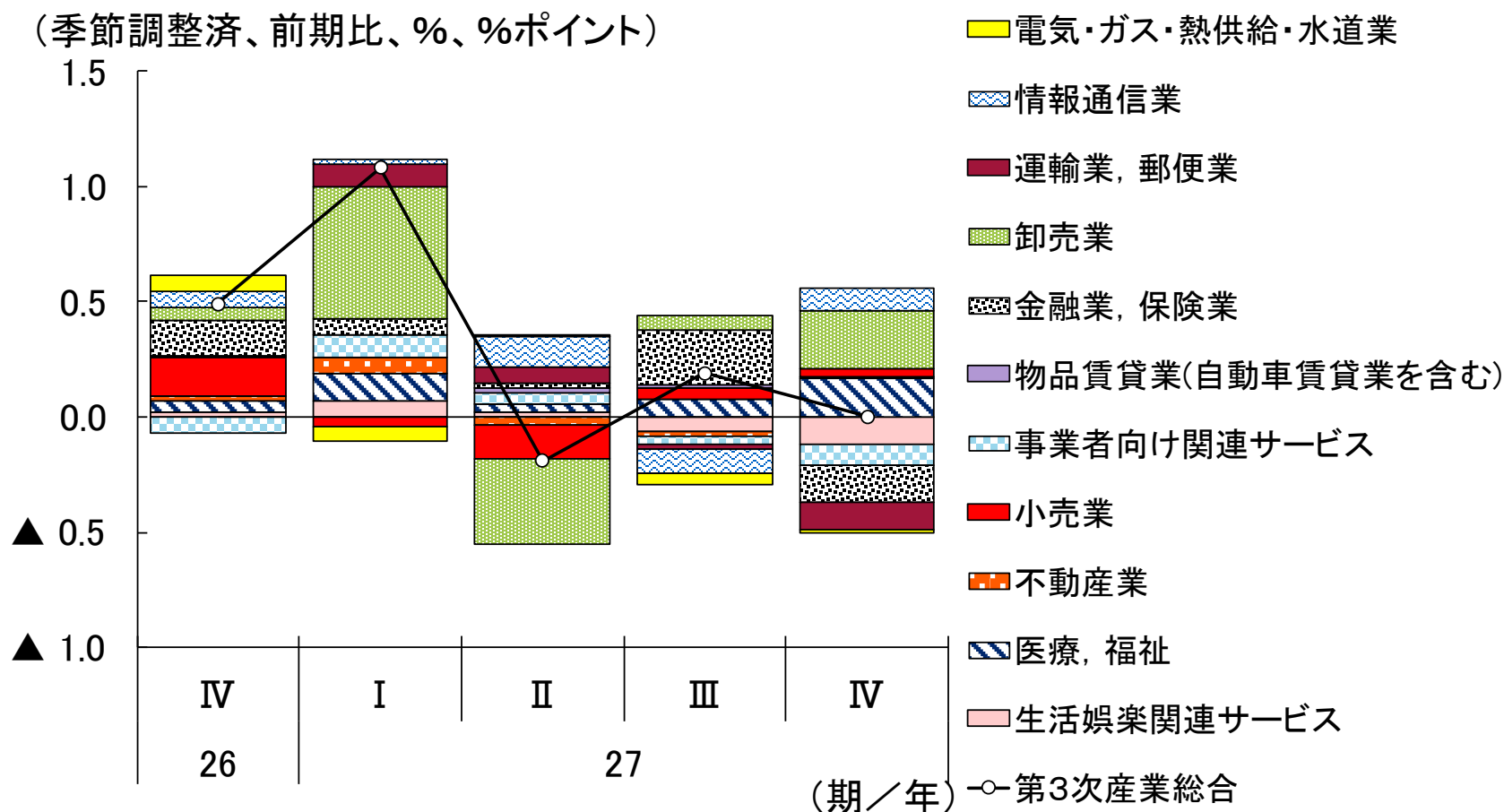


（注）シャドー部分は景気後退局面。

（資料）経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

第3次産業活動指数業種別前期比寄与度分解

- 平成27年10～12月期の第3次産業活動指数(前期比、季節調整済)は、金融業、保険業などが低下したものの、卸売業などが上昇したため、前期比0.0%の横ばいとなった。



(資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

第3次産業総合を大きく動かした 個別系列

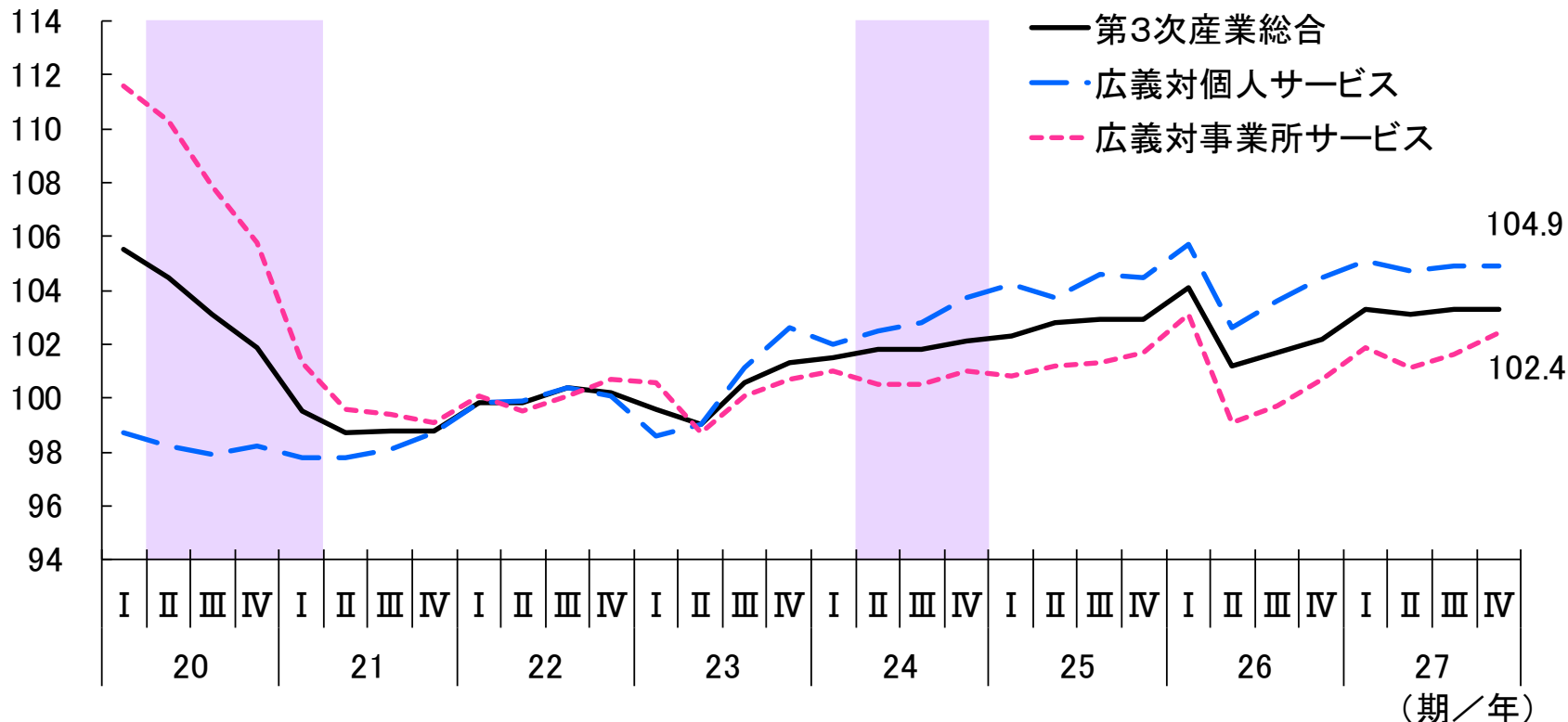
		業種名	前期比	寄与率
○ 第3次産業総合を上昇方向へ 引っ張った3業種の中で 上昇への影響度が大きい内訳業種	1位の業種	卸売業	1.8%	-
	内訳業種	医薬品・化粧品等卸売業	2.9%	-
		各種商品卸売業	2.2%	-
	2位の業種	医療, 福祉	1.2%	-
	内訳業種			
	3位の業種	情報通信業	0.9%	-
内訳業種				
○ 第3次産業総合を低下方向へ 引っ張った3業種の中で 低下への影響度が大きい内訳業種	1位の業種	金融業, 保険業	▲ 1.6%	-
	内訳業種	流通業務	▲ 16.9%	-
	2位の業種	生活娯楽関連サービス	▲ 1.1%	-
	内訳業種	冠婚葬祭業	▲ 6.2%	-
		美容業	▲ 2.7%	-
3位の業種	運輸業, 郵便業	▲ 1.2%	-	
内訳業種	タクシー業 郵便業(信書便事業を含む)	▲ 3.7% ▲ 3.0%	- -	

寄与率: 第3次産業全体の変動に対して影響を及ぼした、各業種の影響の度合い
全業種の寄与率を足すと、当月が上昇なら100%、低下なら▲100%になる

広義対個人サービスと広義対事業所サービス 活動指数の動向

- 平成27年10～12月期の広義対個人サービスは、104.9（前期比0.0%）と横ばい、広義対事業所サービスは102.4（同0.8%）と2期連続の上昇。

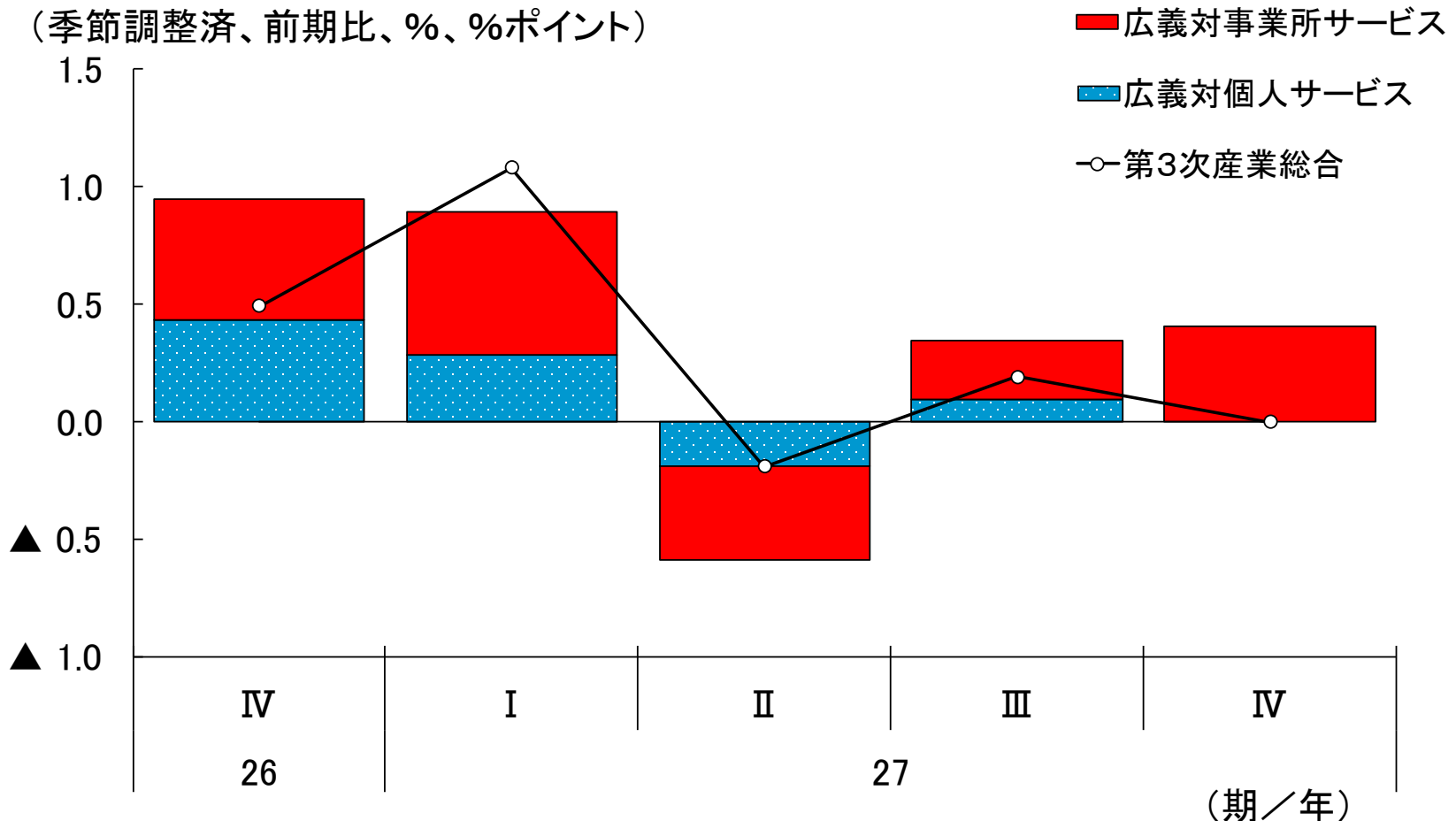
（22年＝100、季節調整済）



（注）シャドー部分は景気後退局面。
（資料）経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

広義対個人・対事業所サービスの内訳寄与

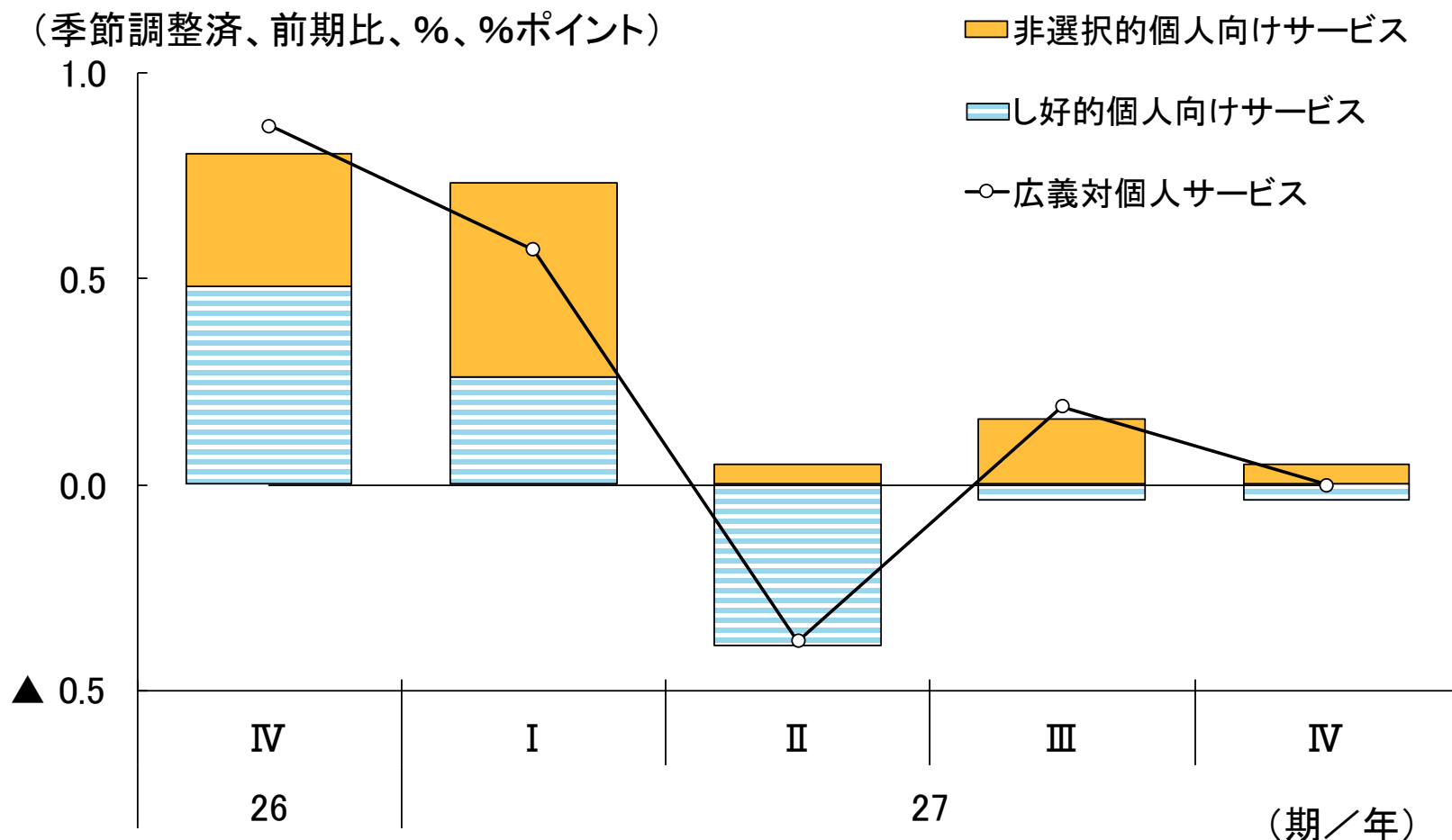
- 平成27年10～12月期の第3次産業活動指数は、前期比0.0%の横ばいとなった。



(資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

広義対個人サービスの内訳寄与

- 平成27年10～12月期の広義対個人サービスは、し好的個人向けサービスが低下したものの、非選択的個人サービスが上昇したため、前期比0.0%の横ばいとなった。



(資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

広義対事業所・し好的個人向けサービスを大きく動かした個別系列

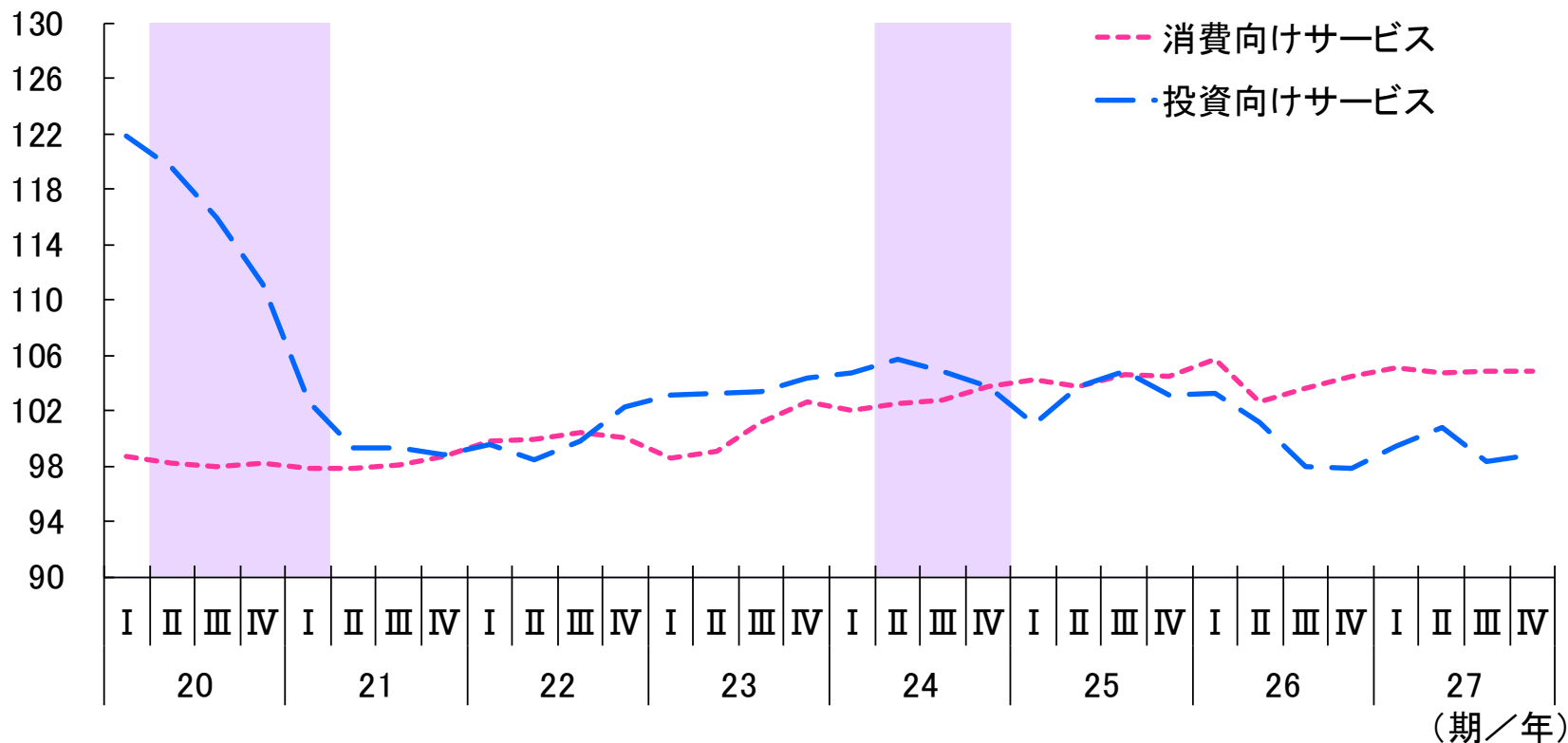
	業種名	前期比
○ 広義対事業所サービスを 上昇 方向へ引っ張った業種の中で上昇への影響度が大きい内訳業種	全銀システム取扱高	3.6%
	受注ソフトウェア	2.0%
	医薬品・化粧品等卸売業	2.9%
	各種商品卸売業	2.2%
	食料・飲料卸売業	1.4%
○ 広義対事業所サービスを 低下 方向へ引っ張った業種の中で低下への影響度が大きい内訳業種	流通業務	▲ 16.9%
	農畜産物・水産物卸売業	▲ 6.8%
	測量	▲ 24.9%
	建設コンサルタント	▲ 2.4%
	郵便業(信書便事業を含む)	▲ 3.0%

	業種名	前期比
○ し好的個人向けサービスを 低下 方向へ引っ張った業種の中で低下への影響度が大きい内訳業種	プロスポーツ(スポーツ系興行団)	▲ 19.3%
	ゲームソフト	▲ 18.6%
	結婚式場業	▲ 14.9%
	自動車小売業	▲ 2.1%
	織物・衣服・身の回り品小売業	▲ 2.3%
○ し好的個人向けサービスを 上昇 方向へ引っ張った業種の中で上昇への影響度が大きい内訳業種	ホテル	5.1%
	自動車整備業	6.4%
	その他の小売業	1.2%
	食堂, レストラン, 専門店	1.0%
	遊園地・テーマパーク	11.7%

消費向け／投資向け指数の動向

- 平成27年10～12月期の消費向け第3次産業は、104.9（前期比0.0%）と横ばい、投資向け第3次産業は、98.8（同0.5%）と2期ぶりの上昇。

（22年＝100、季節調整済）

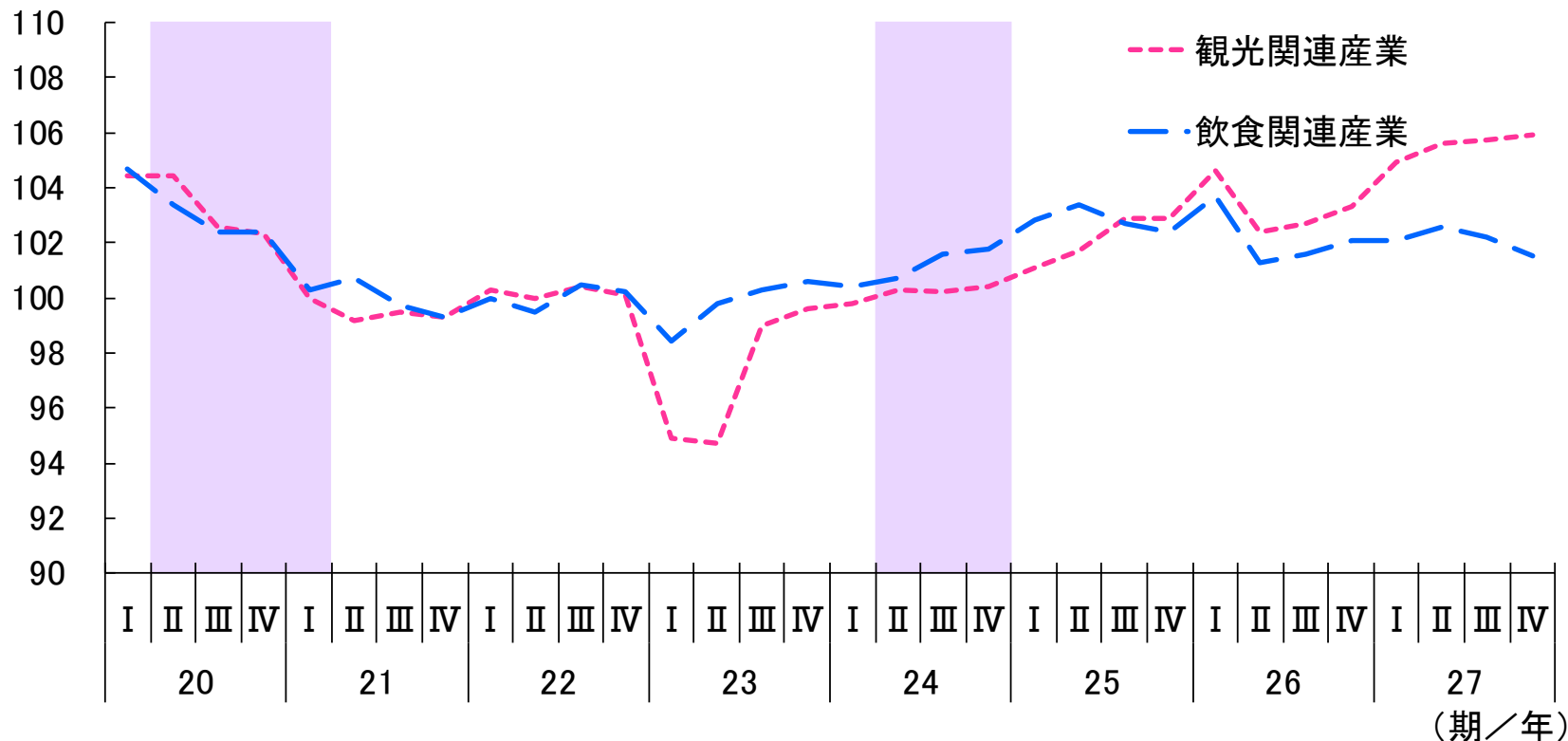


- （注）1. 「消費向け」は、非製造業から供給される個人消費関連のサービス（小売業や娯楽業など）の動きを表す系列。
「投資向け」は、非製造業から供給される民間企業設備関連のサービス（ソフトウェア開発、機械器具卸売業など）の動きを表す系列。
2. シェード部分は景気後退局面。
（資料）経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

観光関連産業及び飲食関連産業指数の動向

- 平成27年10～12期の観光関連産業は、105.9（前期比0.2%）と6期連続の上昇、飲食関連産業は、101.5（同▲0.7%）と2期連続の低下。

（22年＝100、季節調整済）



- （注）1. 「観光関連産業」には鉄道、バス、タクシー、飛行機、船舶などの旅客運送業、道路施設提供業（高速道路）、旅館、ホテルなどの宿泊業、旅行業、遊園地・テーマパークが含まれる。
 「飲食関連産業」にはデパートなど各種商品小売業（飲食料品部門）、飲食料品小売業、食堂、レストランやファーストフードなどの飲食店、飲食サービス業が含まれる。
2. シャドー部分は景気後退局面。
- （資料）経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

全産業活動の動向

鉱工業生産の動向

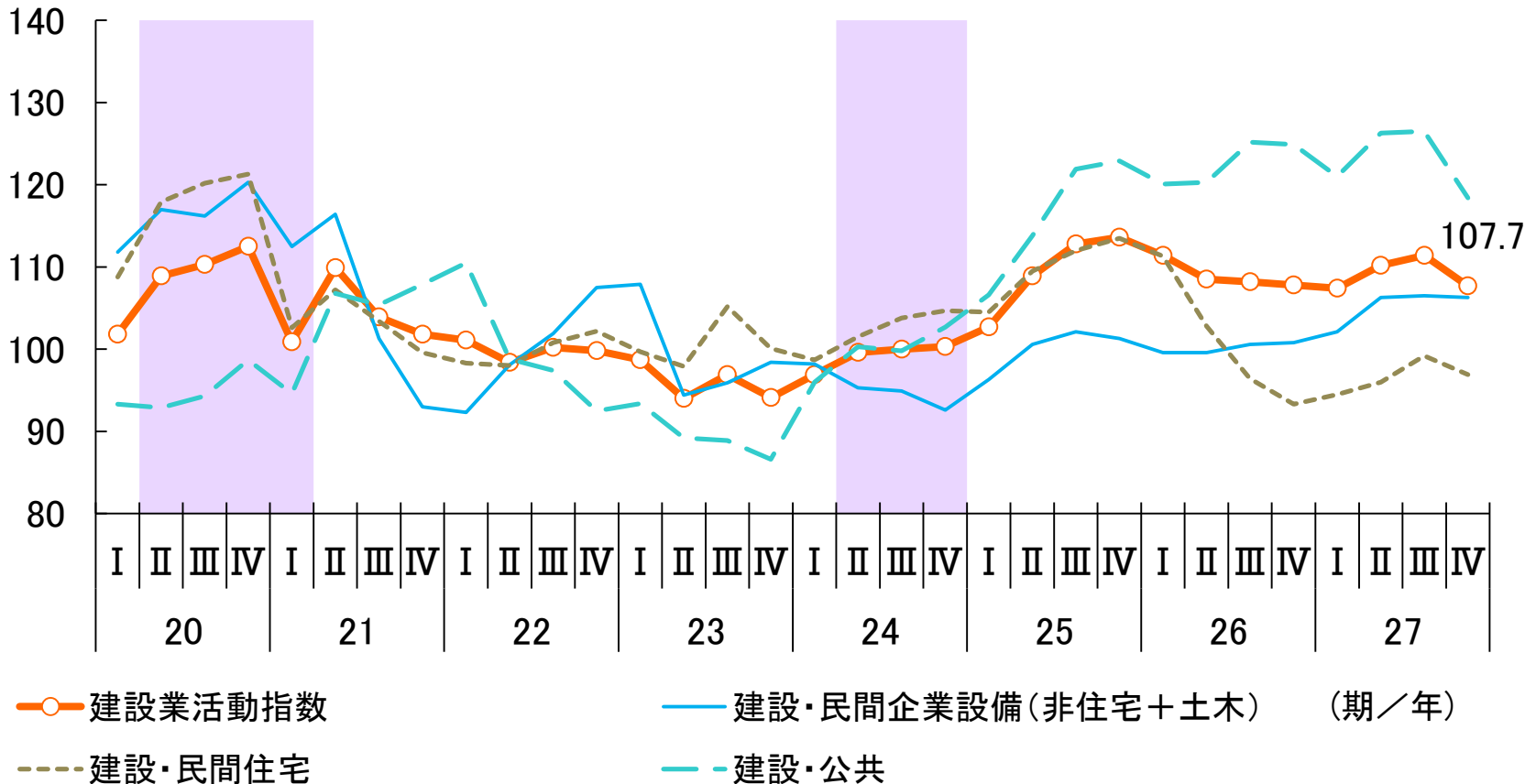
第3次産業活動の動向

建設業活動の動向

第4四半期の建設業活動指数

- 平成27年10～12月期の建設業活動指数は、107.7（前期比▲3.3%）と3期ぶりの低下。

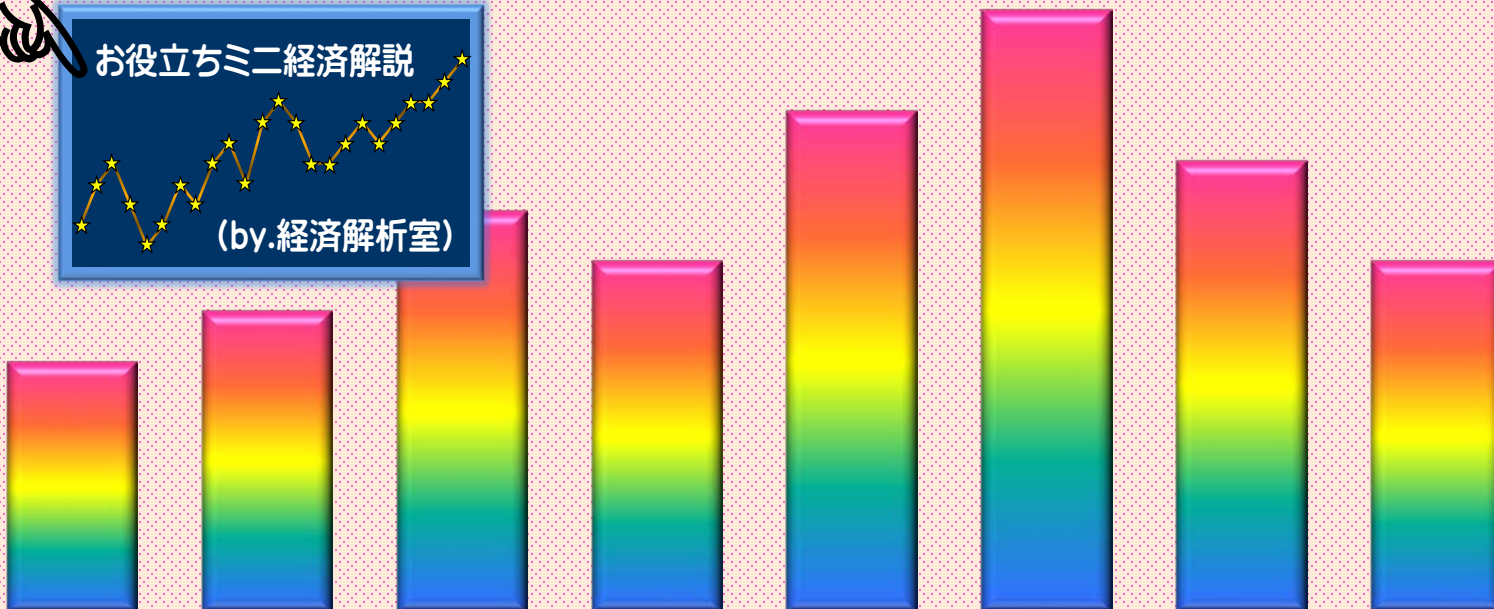
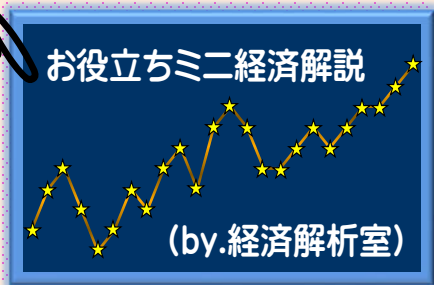
（22年＝100、季節調整済）



(注) シャドー部分は景気後退局面。
 (資料) 経済産業省「全産業活動指数」より作成。

こちら是非御覧下さい！

- ◎ ミニ経済分析：色々なテーマあります
- ◎ お役立ちミニ経済解説：総合ポータルサイトです



お役立ちミニ経済解説、
ミニ経済分析、
動きの見える経済指標、
経済解析など